

はじめの一歩



活動で困ったときに
役に立つ
子どもサポーター
ハンドブック



平成19年3月
神奈川県青少年指導者養成協議会



目次



I 子どもたちと関わる活動

P.3

1. 子どもサポーターって? ... P.4
2. 子どもサポーターの活動にはどんなものがあるの? ... P.6
3. 子どもサポーターの活動にはどんな意味があるの? ... P.8
4. 活動のスタイル ... P.13
5. 話し合いをしよう ... P.17
6. グループの雰囲気づくり ... P.22

II 活動に必要なもの

P.25

1. 情報を発信する ... P.26
2. 場所を探す ... P.32
3. お金を募る ... P.37
4. 協力してくれる人を探す ... P.40
5. 資金を考える ... P.42

はじめのいっしょ

- 子どもサポーターが取り組める活動テーマ ... P.74
- 活動やイベントを企画するときの8つのポイント (6W2H) ... P.82
- 活動に役に立つ文書 (フォーマット) 集 ... P.83
- 子どもサポーターに役立つ研修情報 ... P.98
- 子どもサポーターに役立つ書籍 ... P.100
- 青少年担当課一覧表 ... P.101

1. 活動をおもしろくする工夫 ... P.50
2. グループを育てる ... P.57
3. 地域で場所を確保する ... P.64
4. ネットワークを作る ... P.69

資料集

P.73

III 活動を活性化する

P.49



誰のためのハンドブックか？

 若者（中学生・高校生年齢、12～18歳）



活動を始めたい人 → I (P.3)



活動につまづいた人 → II (P.25)



活動を活性化させたい人 → III (P.49)



役に立つ資料がほしい人 → 資料集 (P.73)

ハンドブックの読み方



最初から全部読まなくてもいいです。



自分にとって必要なページへ飛んでください。



目立つ見出しを多くしています。それを見るだけでも役に立ちます。

記号の見分け方



基本中の基本、でも意外とできてなかったり、忘れがちな事項



これは絶対に忘れてはならないという、まさに重要な事項



活動に役に立つのでチェックしておきたい事項



活動する上で、押さえておきたいポイント
肝（きも）あるいは要（かなめ）となる事項

こども さほた 古戸母 佐歩太 君 の悩み

こども さほた 古戸母 佐歩太君は中学1年生です。彼の通っている中学校では、地域でのボランティア活動を奨励しています。そこで彼は中学生の間に何かやってみようと思いいちました。佐歩太君は、小学生の弟と妹の面倒をよく見ている、小さい子どもと遊ぶことが大好きでした。そこで子どもたちと何かやりたいと思っています。ですが、どこに行けばいいのか、何ができるのかさっぱりわかりません。

どんな活動があるのかなあ？

⇒I P.3 へ



活動を始めるにはどうすればいいんだろう？

⇒II P.25 へ



こども さほた 古戸母佐歩太

役に立つ情報や企画書等の文書例などが豊富。ほしい資料は

⇒資料集 P.73 へ

もっともっと楽しい活動にしたいときは

⇒III P.49 へ

I 子どもたちと関わる活動

子どもたちと関わる活動には
どんなものがあるんだろう？
どんな関わり方があるんだろう？
どんな意味があるんだろう？
よし、調べてみよう！



1. 子どもサポーターって？ …P.4
2. 子どもサポーターの活動には
どんなものがあるの？ ……P.6
3. 子どもサポーターの活動には
どんな意味があるの？ ……P.8
4. 活動のスタイル ……P.13
5. 話し合いをしよう ……P.17
6. グループの雰囲気づくり
……………P.22

1. 子どもサポーターって

この名称を聞いたことはきっとないでしょうね。だってこのハンドブックのために作ったんですから。簡単に言うと地域で子どもをサポートする若い人を指しています。



(1) 子どものときに、身近にどんな人がいましたか？

小中学生のときに、以下のような人が身近にいたらいいなあと思ったことがありますか。

- ①一緒に遊んでくれる人
- ②何でも話せる人
- ③話を聞いてくれる人
- ④相談に乗ってくれる人
- ⑤自分のやっていることを認めてくれる人
- ⑥温かく見守ってくれる人
- ⑦悪いことをしてしまいそうになる自分を止めてくれる人



それぞれどんな人を思い浮かべましたか。①～⑦のうちすべてではなくてもいくつか当てはまる人が、友だち、家族（親・兄弟・姉妹）だったという人が多いのでしょうか。あるいは、先生という人もいるでしょう。中には近所の大人（おじさん・おばさん）という人もいたかも知れません。では先輩（兄貴・姉貴的存在）が頭に浮かんだ人はいますか。このハンドブックで取り上げたいのは、小中学生にとってちょっと年上のお兄さん・お姉さんとしての中学生・高校生年齢の若者（12～18歳）です。このハンドブックでは、そのような人たちを「**子どもサポーター**」と呼ぶことにします。

(2) 子どもサポーターって、どんな人？

年齢の近い兄貴・姉貴的な存在

小学生にとって、(1)の①、②、③は特に必要かもしれません。友だちでこのような人はいても頼りになる年上の人でこのような人に巡り会うことは少ないと思います。特に最近では年齢がちがう人たちが遊んだり何かをすることが少なくなっているからです。

年齢が近ければ友だち感覚でつきあうことができ、一緒に遊べます。大人よりハードルが低く、子どもも話しやすいでしょうから、話を聞いてあげることもできます。子どもたちがやりたいことを共に汗を流して、一緒に考え実行してくれる存在になってあげることができます。

中学生にとってはどうでしょうか。自分のやっていることを意識する年代になり、さら

に周りの人に認められたいという気持ちが強くなります。そこで④～⑦がさらに必要になるでしょう。身近な世代の高校生年齢の若者（15～18歳）にこのような人がいれば、自尊感情（自分に誇りを持てる感情、自分を好きになる気持ち）が高まり、何事にも前向きになりやる気が出てくるでしょう。⑦は高校生年齢の若者にはまだ難しいかも知れません。高校生年齢以上の年代に期待したいと思います。

小学生にとっては中学生、中学生にとって高校生年齢の若者が「**子どもサポーター**」になることができます。

子どもが主役＝子どもができることはしない

サポーターですから、主役はあくまで子どもです。子どもをサポートする若者です。しかし子どもをお客さんにして、手取り足取りやってあげるというわけではありません。子どもたちが何を考え、何をしたいのかという本音を聞いてあげて、それを実現するためにはどうすればよいのかについて、子どもたちの知恵や工夫を引き出す役割です。

ヘルプではなくサポート

Help（手助け、手伝うこと）ではなく Support（支援、支えること）をすることになります。例えば、秘密基地づくりをしようとしたときに、道具（金槌やのこぎりなど）の使い方は教えるが、実際にそれらを使って製作するのは子どもたちです。どうやって作るのか素材は何にするのかを考えるのも子どもたちです。子どもたちが素材に竹を使って秘密基地を作ろうと考えた場合、その竹をどこから調達するのかについて相談に乗ってあげます。竹林の持ち主との橋渡し役になり、子どもたちが持ち主と交渉できるようにします。子どもたちが自分たちでどこまでできるかを考え、子どもにできることはしないようにします。このように子どもたちが活動の中で、**自分で考え行動する**ようにし向けていきます。これは「**子どもの参画**」という考え方に基づいています。子どもが自分たちで考えたことを活動の中に取り入れ、自分たちの力で活動していくことです。**子どもの自発性を高め**ます。

※「参加」と「参画」のちがいは：

「運動会に参加する」＝「リレー競技に参加する」

「運動会に参画する」＝「運動会の実行委員会に参画し、競技・運営方法について会議で提案して、当日は役員として運営にあたる」

子どもサポーターの役割

- ・子どもと一緒に遊ぶ。
- ・子どもと一緒に考える。
- ・子どもの意見を聞き、子どもが考えていることを引き出す。
- ・子どもができることはせず、子どもにできないことをする。
- ・大人と子どもの橋渡し役になる。



2. 子どもサポーターの活動にはどんなものがあるの

どんな活動をすればいいんでしょうね。地域のの人たちとわいわい楽しいことをするみたいですね。



(1) キーワードは、「地域活動」「子どもが主役」「大人を巻き込む」

テーマは何でもいい

テーマは何でもいいのですが、**地域活動**として取り組むことに意味があります。もちろん今までであったような活動ではなく、子どもサポーター自身でやりたいことがあれば、**子どもを主役にして**、立ち上げてもいいのです。そして大事なことは、子どもからお年寄りまでの地域住民が参加し、**大人を巻き込んで**協働して活動することです。従来の地域行事へのジュニアリーダーの参加を見ていると、大人に利用されていて、大人サポーターになっていることがあります。そうではなく大人を味方につけて、逆にうまく利用してほしいと思います。

※協働＝コラボレーション：共に考え、共に汗を流し、協力して働くこと

地域に根ざした活動テーマの例 ⇒資料集 P.74 参照



- ・子ども会活動：新入生歓迎会、子どもまつり、クリスマス会、キャンプetc.
- ・地域行事：地域の運動会、納涼祭・盆踊り大会、地域清掃、公民館まつり、フリーマーケットetc.
- ・伝統行事：例大祭、どんど焼きetc.
- ・施設ボランティア：児童館、放課後児童クラブのボランティアetc.

(2) 日常的に一緒に遊ぶ

児童館へ行こう！

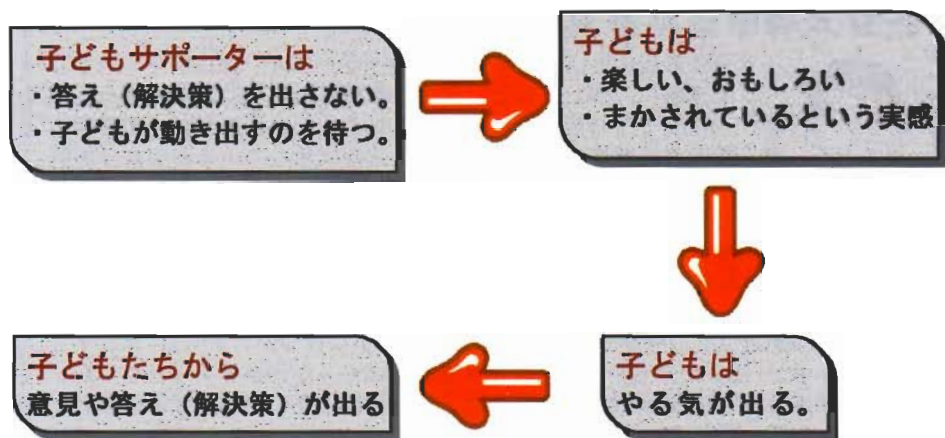
子どもとすぐに一緒に何かができるわけではありません。子どもとの関係づくりが大切です。そこで児童館などで一緒に遊ぶことから始めてほしいと思います。また公民館行事

などにボランティアで参加して、子どもに顔を覚えてもらうのも手です。大切なことは日常的に子どもと接して、遊ぶことです。そこから、それぞれの子どもとの関係づくりができていきます。そうして子どもが何でも言ってくれるようになってくれば、しめたものです。

(3) 子どもサポーターは答えを出さない

子どもサポーターは、課題をクリアするための答え（解決策）を出さなくて、子どもたちが知恵を絞って、工夫の仕方を考え出すまで待つことが大切です。これが意外と難しいのです。また子どもの意見を聞いたとき、最初からどうせできっこないと否定しないで、まずやってみて子どもたちが納得するのを待ちましょう。それからまた次の案を試してみるという繰り返しです。時間がかかりますし、子どもたちのやる気をそがないように工夫しなければなりません。

誰でも「**楽しい、おもしろい、自分にまかされている**」という実感があれば前向きに考え、実行しようとしてます。子どもは「**自分で考え、やってみたらできた**」という体験を通して自信をつけていくものです。



(4) 子どもの憧れ・ヒーローモデル

子どもにとっては、子どもができないことをするお兄さん・お姉さんは憧れの的になります。自分の中のヒーローであり、モデルの登場です。子どもサポーターはそんな存在になって欲しいと思います。しかし**主役はあくまで子ども**です。子どもサポーターはこのことを忘れないようにしてほしいと思います。



I

3. 子どもサポーターの活動 にはどんな意味があるの



子どもにとっても、子どもサポーターにとっても
きつといいことがあるはずです。

(1) 体験学習って、何？

人は聞いたことは忘れる 見たことは覚える したことは理解する

今から2,500年ぐらい前に孔子が言った言葉です。聞いたことよりも見たことよりも体験したことが勝るということです。実体験の少ない現代の子どもには**体験学習**が必要であるということにつながります。

佐歩太君の体験学習



古戸母佐歩太という中学1年生の男子がいます。彼は中学に入学して、柔道部に入部しました。先生や先輩にあいさつが基本だと言われ、人に会ったら自分からあいさつしようと決めました。ある日の朝、近所を自転車で行っていたら、近所に住んでいるお年寄りが前を歩いていました。そこで「おはようございます」と言ってみました。しかし聞こえなかったのか、そのまま追い越すだけになってしまいました。佐歩太はこの体験をふりかえて、自分からあいさつできたが相手からあいさつが返ってこなかったのが、寂しい思いをしたと感じました。

あいさつが返ってこなかった理由として「後ろから近づいたから」「声が小さかったから」「相手が気づかなかったふりをしていた」などが考えられました。そこで今度は、「自転車の速度を落として、大きな声であいさつをすること」を試してみようと思いました。

そしてある日の午後チャンスが巡ってきました。やはり自転車に乗っていて、前を歩く近所のおばさんがいました。そこで通り過ぎる少し手前で、ブレーキをかけ速度をぐっと落としました。ブレーキの音が一瞬となったので、ちょうどふりかえてくれて、「こんにちわ」と大きな声を出してあいさつすることができました。するとおばさんは笑顔で「こんにちわ」と返してくれました。しかも「ちょっと待って」と、佐歩太を呼び止めて「古戸母さんこの佐歩太君かい？大きくなったね。何年生になったの？」「中学1年生です。」「そうかい、元気な声が聞いてよかったよ。」と言ってくれました。佐歩太はさすがに気分になることができました。



体験学習の考え方では、まず目標を立て「実体験」をし、その体験を「ふりかえり」ます。次に他の場合はどうすればよいかという「一般化」をして、実生活（家庭、学校、社会）で「試してみる」というサイクルです。そしてまた「ふりかえり」「一般化」「試す」という繰り返しです。体験学習というと難しいように感じますが、実は誰でも生活の中で繰り返していることです。

佐歩太君の体験がまさに体験学習になっています。きっとこの体験が実生活で役に立つこととなるでしょう。人はこのようなことを繰り返して、成長していくのだと思います。しかしこのおばさんが、あいさつを返してくれなかったら、佐歩太君はどうなっていたでしょうか。それでも次回頑張るってあいさつしようと思うのでしょうか。それとも……。やはり人が人を育てていくのだと思います。

(2) 承認するって、どういうこと？

承認されるって気持ちいい！

「佐歩太君の体験学習」の最後に、おばさんが「元気な声が聞けてよかったよ。」と言っていますが、これは、佐歩太君を『承認』していることとなります。人に認められたときに、人は初めてそこにいるありのままの自分（自分の存在価値）を確認することができます。これが『承認』されたということです。おばさんは佐歩太君が元気にあいさつしたことを認めてあげたのです。あいさつをすることだけを心がけた佐歩太君はおばさんを元気にすることができたのです。佐歩太君にとっても気持ちのいい体験だったことでしょう。この体験を通して、自分を好きになる気持ち（**自尊感情**=自分に誇りを持てる感情）が佐歩太君に生まれたかもしれません。



現代の子どもたちは、**自尊感情**が低いと言われていています。学校・家庭・近所（地域社会、暮らしているまち）で常にいい子でいることを求められていて、ありのままの自分を出せずにいます。子どもはどこにいても窮屈で、居心地が悪い状態にあります。そのような子どもたちに対して、皆さんは子どもサポーターとして、このおばさんのように接していただきたいと思います。子どもたちのありのままを認めてあげてください。

(3) 子どもが変わる！

社会性・コミュニケーション能力

現代の子どもたちは、社会性に乏しく、コミュニケーション能力が低いと言われます。つまり人と関わっていく力が弱いということです。その原因は年齢が異なる集団で遊ぶ機会が極端に少ないことにあります。みなさんはどうだったのでしょうか。群れて遊ぶことによって、社会性や人間関係づくりを体験学習することができます。若者と子どもたちが関わりながら、住んでいるまちの大人も巻き込みながら活動することで、この体験学習を実現させたいと思います。

課題解決能力

現代は、子どもにとって「不足する」ことが不足していると言われていいます。何でもすぐに手に入る世の中で、わざわざ必要な物を自分で作ることや壊れた物を修理しながら使うことはほとんどありません。子どもたちは自分の力で課題を解決していくことには慣れていません。しかし社会に出れば、自分の思い通りにいかないことばかりで、どう対処したらいいのか悩んでしまい、ひきこもりやうつ状態になってしまう人がいます。人と関わる体験、自然体験、ものづくり体験、職業体験、それらの体験活動を企画する体験など、多くの体験の中に越えなければならないたくさんのハードルがあります。そのような課題を解決しながら前進するというのを何度も繰り返すことで、**課題解決能力**が身につきます。子どもサポーターはそのような体験活動を支援していきます。子どもサポーター自身の課題解決能力も向上していきます。

失敗は成功の母／失敗体験が人生の糧になる

体験活動の中で大切なことは失敗から学ぶということです。大人たちは失敗を恐れてはいけなくよく言いますが、実際には子どもたちが失敗しないように先回りすることがしばしばあります。しています。それでは子どもが成長しません。子どもサポーターは**失敗を許す心の広さ、温かく見守る姿勢**を持ってほしいと思います。最初からうまくいくことの方がまれです。その失敗体験を通して、やがて目標に到達できるでしょう。

住んでいるまちの大人への信頼

例えば夏祭りの盆踊り大会で、子どもたちがやりたいことを実現できたらどうでしょう。

佐歩太君の盆踊り大会



古戸母佐歩太は、住んでいるまちの盆踊り大会に小学校4年生までは毎年参加していました。しかし5年生ぐらいからおもしろくないなあと感じて、参加しなくなりました。中学1年生になって、子ども会行事にも参加しなくなり、地元で何となくつまらないと感じていました。そんなとき小学校6年生の女の子たちが公園で話をしていました。「今年の盆踊り大会どうする?」「なんかつまんないわよね」佐歩太はその話を耳にし、何とかならないかと考えました。たまたま近所の子だったので、声をかけました。佐歩太「おもしろくないなら、おもしろくしちやおうか」、小学生「えーどうやってー?」、佐歩太「うーん、まだわからない」「おもしろくできるんなら、参加するかい?」、小学生「うーん、やりたいことができればいいよ」ということになりました。

盆踊り大会は地域の町内会主催で毎年実施していることを親に聞いて、役員の人たちに相談に行きました。しかし壁は厚く、話をきちんと聞いてもらえませんでした。そこで仲間を募って具体的に何をしたいのかを相談することにしました。自分の友だちや公園にいた2人の友だちを集めて、児童館で話し合いました。出てきた案は、「運動会で踊ったよさこいソーランをやりたい」「パラパラをやりたい」の2つでした。そんな話を他の友だちにしたら、やりたいという声がたくさんありました。夏休みに入って、具体的に曲も決め、振り付けも覚え始めることにしました。よさこいソーランは先輩の中学生も運動会でやっているの、現

役の小学生に教わりながら思い出していきました。パラパラについては、中学生が小学生と相談しながら振り付けを考え、みんなで練習しました。地域の大人たちがそんなことを聞きつけ、様子を見に来るようになりました。その子たちの親の中に町内会の役員もいて、中心人物の佐歩太に声がかかりました。町内会の役員会で佐歩太は、緊張しながらもみんなのやる気を率直に伝え、盆踊り大会でやらせてほしいと訴えました。その熱意に役員たちも理解を示し、2曲を踊ることが決定しました。具体的な段取りを相談することになり、できれば地元の若い人たちにも声をかけ、たくさん来てもらおうと考えました。そして当日、例年あまり参加しない中高生が目立ちました。最初は遠巻きに見ていたのですが、パラパラの曲が流れ、やぐらの上で佐歩太たちが簡単な振り付けをやって見せて、中高生に教えると、盛り上がってきて、本番には大きな輪ができてたくさんの若者が参加してみんなで踊ることができました。しかもアンコールでは、大人たちも参加して大変な盛り上がりとなりました。



これを読んでどう感じましたか。そんなに簡単にいくわけがないと思いますか。でもやってみなければわからないでしょう。自分たちがやりたいことを大人にぶつけたことがありますか。最初から聞いてもらえないと思って、本音を出せないでいるのではないのでしょうか。まず仲間づくりが大切ですね。その仲間の盛り上がり、やる気を引き出すことで、大人に実感してもらう作戦が一番でしょう。もし大人が本当に子どもたちの活動を認めてくれたときに、大人を信頼する気持ちが生まれるはずですよ。これがきっかけで子ども・若者の考えを地域で聞いてもらえるようになるかも知れませんね。

(4) 若者(子どもサポーター)にとって、どんなメリットがあるの?

人生の宝物(人との出会い)が手に入る!?

忙しい中高生が、地域で活動することにどんなメリットがあるのでしょうか。活動は楽しいことが基本ですが、忙しかったり、大変だったり、トラブルが起きるかもしれない活動でもあります。しかし人生の財産となる宝物が手に入るかも知れません。それは**人との出会い**です。共に汗を流し、苦勞を乗り越えることで、**仲間とのきずな**は確実に深まります。自分のまちに暮らしている子どもからお年寄りまでが集い楽しく過ごすことで、互いに認め合い、理解することができれば、やがて信頼関係が生まれます。この活動がきっかけでその後も何らかの形で、関わるようになっていくでしょう。そこで出会った親でもない教師でもない近所に住んでいるおじさん・おばさんが、人生の大先輩として**その後の人生に影響を与えてくれる存在**になるかも知れません。また学校や部活動以外で**年齢の近い先輩と呼べる人**ができるかも知れません。人生の中で信頼できる人との出会いはそう多くはありません。学校・家庭以外にこのような機会を与えてくれるのが、子どもからお年寄りまでが参加する地域活動です。

この活動を最後までやり遂げることができたとき、例えそれが失敗に終わっても、大きな自信につながります。そして自分がこのまちで必要とされる存在であることを実感でき

1
 るようになります。子どもと同様に自分を好きになる気持ち（**自尊感情**=自分に誇りを持つ感情）を持てるようになるでしょう。人間関係づくりを体験学習する機会になるので、**コミュニケーション能力、人と交渉する力（相手と取り決めるために話し合う力）**なども身につきます。**働くことあるいはボランティアの楽しさ、充実感**を味わうこともできます。

(5) 地域はどう変わるの

自分の暮らしているまちってどんなところ？

下のプラス、マイナスのどちらかに○をつけてみましょう。

マイナスイメージ (-)	プラスイメージ (+)
<input type="checkbox"/> 住んでいる人をよく知らない <input type="checkbox"/> あいさつをしない <input type="checkbox"/> 交流はほとんどない <input type="checkbox"/> 助け合いがない <input type="checkbox"/> 人情味が感じられない <input type="checkbox"/> 居心地が悪い <input type="checkbox"/> 冷たい感じがする <input type="checkbox"/> 治安に不安がある <input type="checkbox"/> 子どもの遊んでいる姿をあまり見ない <input type="checkbox"/> 地域行事に参加したことがあまりない <input type="checkbox"/> 閉鎖的	<input type="checkbox"/> 住んでいる人を結構知っている <input type="checkbox"/> あいさつをする <input type="checkbox"/> 交流がある <input type="checkbox"/> 助け合いがある <input type="checkbox"/> 人情味がある <input type="checkbox"/> 居心地がいい <input type="checkbox"/> 温かく感じる <input type="checkbox"/> 安心感がある <input type="checkbox"/> 子どもの遊んでいる姿をよく見かける <input type="checkbox"/> 地域行事が楽しい <input type="checkbox"/> 開放的



住んでいる人たちやまちに対して、プラスが多ければいいイメージを持っているのだと思うし、マイナスが多ければそうではないということです。住んでいる人が全員でこれをもしやっただとして、プラスが多い人が多ければ、そのまちは地域社会（住民が支え合っているコミュニティ）に近いと言えるでしょう。マイナスが多い人が多ければ、地域社会ではなく、人と人の関係が薄い単なる地域（区切られた土地を表した言葉）に近いのかもしれない。

現代の日本は、隣に住んでいる人の顔も知らない、道で会ってもあいさつをしないような地域が多くなってきています。その結果、地域行事への参加者は少なくなり、子どもの安全が脅かされ、空き巣が多くなったりしています。子どもが健やかに育つ環境ではなくなっています。こうなってしまったのには、いろいろな原因があり、大人に責任があります。

ここで登場するのが、子どもサポーターです。子どもを主役にし、大人も巻き込んだ活動を地域で展開することが、**住みやすいまちづくり**のきっかけになるかもしれません。みなさんの暮らしているまちが、少しでも住みやすくなれば**子ども・若者の未来を明るく**することになるでしょう。

4. 活動のスタイル

では、実際に子どもサポーターとして活動してみましょう。といっても、活動をするためにやらなくてはならないことが色々あるというのはなんとなく分かるけれど、どのように、何から始めればいいのでしょうか。この章では、活動のスタイルについてふれていきます。活動のスタイル、つまりどうやってあなたが子どもサポーターとして活動をしていくのかということです。そしてそれはあなたがどのような活動をするのかによって変わってきます。

例えば盆踊り大会（P.10）を大成功させた古戸母佐歩太君が始めた活動は、仲間なしでやり遂げることはできたでしょうか？

場合によっては個人で活動することも可能だと思いませんか？

おおまかな活動のスタイルとして、以下のようなものがあげられます。

ここでは、4つの活動のスタイルについてふれました。試行錯誤を繰り返していき中でより充実した活動ができればいいのであって、最初にした活動スタイルをずっと続けなくてはいけない、などということは決してありません。自分の取り組んでいる活動にあったスタイルを見つけることができれば、きっと活動は充実したものになるでしょう。

君の活動スタイルは？



I (1) グループを探して参加する

地域の子どもたちを集めて、子どもサポーターとして何かをしたいと思っても、どうやって何から始めればいいのか分からないのでは、どうしようもありません。そのような時はまず、既に子どもたちを集めて活動しているグループに参加してみてもいいでしょうか。地域にはあなたがしたいと思っているような活動をしているグループがあるかもしれません。活動に興味を持っているということを伝えれば、仲間として快く迎えてくれることでしょう。そこで実際に活動をしながら、活動を始めて、続けていくにはどんなことが必要なかを学んでみるとよいでしょう。あなたが思っていた通りのこと、まったく予想していなかったことなどが分かるし、活動のためのたくさんのヒントが詰まっています。もしあなたがそのグループで活動したいと思うならば、そこにとどまればいいし、そうでなければ新たにグループを立ち上げればよいでしょう。

では、既に活動しているグループを探すにはどうしたらよいのでしょうか。

身近な人に聞いてみましょう

まずは保護者や学校の友人・先生、近所の人など身近な人に聞いてみましょう。保護者や近所の人の中に、子ども会やジュニアリーダーズクラブなどについて、知っている人がいるかも知れません。またもしかしたら友だちの中には、何か活動している友だちや知り合いがいるかも知れません。

施設に行って聞いてみましょう

また、青少年関係の施設や公民館・地区センター・市民活動センターのような施設に行って聞いてみるのもいいと思います。施設に所属したり、施設を拠点にして活動している中高生を主体にしたグループなどを紹介してくれることでしょう。

役所に行って聞いてみましょう ⇒ 資料集 P.101 参照

県・市町村には、必ず青少年を担当している課があります。課の名称はいろいろで、青少年課、青少年育成課、生涯学習課、社会教育課などです。そこに問い合わせてみれば、ジュニアリーダーズクラブなどの中高生を主体にして活動しているグループを紹介してくれます。

インターネットで調べてみましょう

インターネット上には、たくさんの情報が掲載されています。市町村名及び「青少年活動」「青少年団体」「子ども」「ボランティア活動」などのキーワードで検索してみましょう。



(2) 新たにグループを作る

新しいグループを立ち上げて活動するにはまず、一緒に活動していく仲間を探さなくてはなりません。そして、仲間になってもらうには、自分が子どもサポーターとしてどんな活動をしていきたいのかという事を理解してもらう必要があります。少しずつ仲間が集まってきたら、ミーティング（打ち合わせ）をしてみましょう。まずは一緒に活動する仲間同士のコミュニケーションを図り、お互いがどんな人かということをよく知るように心がけ、グループの楽しい雰囲気をつくることから始めましょう。これは子どもサポーターとして、地域の大人、子どもたちやたくさんの人と関わりあいがら行われる活動において重要なことです。具体的な事柄は、後の章で取り扱います。

グループを作る手順

① 仲間さがし ⇒ 詳しくはP.26へ



② 雰囲気作り ⇒ 詳しくはP.22へ



コミュニケーション⇒考え方の理解・共有

③ ミーティング ⇒ 詳しくはP.17へ



④ さあいよいよ活動開始 ⇒ 詳しくはP.25へ



(3) イベントを立ち上げる ⇒ 資料集 P.82 参照

一回限りのイベントのために、短期間に限って活動するというスタイルもあります。先ほども登場しましたが、古戸母佐歩太君の活動はまさにこのスタイルに当てはまります。

「忙しくてグループとして定期的に長く活動していくことはできないけれど、興味があるしぜひ参加してみたい。短期間の活動ならば参加しやすいのになあ。」という人もいます。実際にイベントを行うための企画や事前準備として、数回話し合いの場を設けて、イベントを実行する、というスタイルです。実際にイベントを実行してみて、「これからも続けていきたいな」と思うようならば、新しいグループを作るなど、他のスタイルで子どもサポーターの活動に取り組んでみるといいでしょう。



イベントを立ち上げる手順



- ① テーマ・内容を決める ⇒ 資料集 (P.74) へ
- ↓
- ② グループを作る手順 ⇒ Iの4.(2)①～③ (P.15) へ
- ↓
- ③ 場所を探す ⇒ IIの2. (P.32) へ
- ↓
- ④ 資金を集める ⇒ IIの3.(4) (P.38) へ
- ↓
- ⑤ 参加者を募集する (広報) ⇒ IIの1.(2) (P.27) へ



(4) 個人で活動する

これまでではグループでの活動のスタイルについて書いてきましたが、個人で活動することも可能です。個人で活動するということは、場所探しなどの準備から実行まで、全て自分で行わなければなりません。しかしその分、大きな達成感を得ることができるのではないのでしょうか。

「施設ボランティア」タイプ ⇒ 青少年担当課 (P.101) に相談してみよう

この活動は、施設の理解が得られれば、自分の空いた時間を利用して実施できるものです。児童館、放課後児童クラブ、はまっこふれあいスクール (横浜市)、わくわくプラザ (川崎市)、フリースクール・フリースペースなどで日常的に子どもが遊んでいる施設を訪問して、一緒に遊ぶというものです。

「助っ人」タイプ

一匹狼の助っ人タイプの活動です。グループのイベント、施設の行事・イベントなどにボランティアとして参加して、活動をサポートします。



5. 話し合いをしよう

グループで活動するなら、メンバーの意見やアイデアにお互いが耳を傾ける必要があります。誰か一人や一部のメンバーだけで盛り上がり過ぎてしまえば、グループの和は生まれにくい、活動もうまくいかなくなってしまうでしょう。では、どうしたらいいのでしょうか？大切なのは「話し合い」の場を持つことです。

(1) 話し合いの効果

話し合いは、賛成・反対の結果を出すためだけではなく、グループで共通の結論を出すためにメンバー同士が努力をし協力して、グループで意思を決定するための大事な機会です。積極的な話し合いは、グループ活動の上で効果的な役割を持っています。

新しいアイデアを生み出す

「三人寄れば文殊の知恵」というように、自分ひとりでは思い浮かばなかったようなアイデアに気づくことができます。

共通の理解や認識を得る

みんなの考えていることがバラバラでは、活動はうまくいきません。グループで一致した考えを持つことが必要です。

チームワークの向上

チームワークの良さはグループ活動の質の向上にもつながります。

グループの運営がスムーズになる

話し合いの過程でメンバー同士が理解しあい、出された結論に向かって活動することで、運営はスムーズになります。

人間関係がよくなる

互いの要望をできるだけ満たすことで、メンバー同士の良い関係を生み出します。

責任を明確化し自覚する

自分が何をすべきかをはっきりとさせ、どうやったら実行することができるかの方法を見つけ出す姿勢を生みます。



当たり前のことだけれど



- なかなかできないのが、「欠席・遅刻は前もって連絡すること」
- 日程・会場設定は無理なく、皆が集まりやすいように！

(2) 目的を持って話し合おう

話し合いといっても、グループでどんなことをするのか話し合うためだけのものではありません。いくつかの目的で、話し合いを活用することが可能です。

情報伝達のための話し合い

イベント参加者への説明会のように、参加者が知らない情報を伝える話し合い。

結論に導く話し合い

参加者から意見を引き出し、望ましい結論を引き出すための話し合い。

アイデアを求める話し合い

イベント企画など、参加者から情報や意見を求める話し合い。

問題解決のための話し合い

意見交換によって、ある問題についての見解をまとめ、納得のいく結論を出すための話し合い。

**話し合いをする前にルールを決めよう！
お互いに自由に意見交換できるように！**



例えば、定例会のとき

- ・議題は前もって知らせておく。
- ・わかりやすい資料を用意する。
- ・議題がなかったり、特に用件がないときは開かない。
- ・遅刻してきた人がいた場合、一時中断して司会が簡単に経過を説明する。
- ・一人の人が長時間話すことのないようにし、皆が意見を言うこと。

例えば、企画会議（アイデア出し）のとき

- ・相手の意見をすぐに批判したり、否定したりしない。
- ・人のアイデアをパクって、自分の意見をプラスするのはOK！
(アイデアの連鎖)
- ・アイデアの失敗作、駄作はOK！
(失敗を恐れない、笑い飛ばして次へ)



(3) 話し合いに必要な役割

役割分担をすることによって、話し合いはスムーズに、そしてより実りの多いものになります。ここではいくつかの役割を紹介します。

司会者

雰囲気を作り、話し合いをリードし、参加者の意見をまとめ、話し合いをむだのないようにするために重要なのが司会者です。また、参加者同士の人間関係を深めるのも司会者の仕事です。

助言者

助言者には2種類の役割があります。一つは進行についての助言者、もう一つは内容についての助言者です。先輩などに頼むとよいでしょう。

記録者

話し合いの内容を記録することは、とても大切なことです。日時や場所、出席者や役割分担、話し合いの内容、結論のまとめなどを分かりやすいように記録用紙に記録します。

その他

話し合いをより効果的にするために、話し合いの種類や内容に応じて、次のような役割をおいてもよいでしょう。

雰囲気作り係

話し合いの最初に緊張を解き、場を和ませるために、ゲームなどをして**アイスブレイキング** (P.21 参照) する係。長時間のときには、休憩時間にするのもよい。

板書係

決定事項などを常に参加者が確認できるように黒板やホワイトボードに記録する係。

湯茶係

お茶の時間やコーヒーブレイクなどを演出する係。参加者で茶菓子をもち寄ってもよい。

こんな工夫はいかがですか



- ・会議の始まるときに必ず皆で歌を歌う。歌集を作っておくと便利！（効果：楽しくなる。雰囲気が盛り上がる。皆の気持ちが一つになる。）
- ・早く来た人が損をしないように、新しく覚えたゲーム・レクダンスなどを出し合う（役に立つ・立たないは別にして、楽しくなりそうなことは何でもやってみよう）。
- ・休憩時間にも、何か（ゲーム、感動したお話・スピーチetc）やってみよう。進んで誰かがやるのがベストだが、なかなか出ないのであれば、あらかじめ順番を決めておくとよい。

I (4) 話し合いの手順

話し合いの進め方には、特に決まりごとがあるわけではありませんが、ある程度手順を理解しておくことは有効です。

導入

- ・自己紹介の工夫やレクリエーションによって話しやすい雰囲気を作ります。
- ・また、話し合いのテーマについて説明し、話し合いの目的、問題点進め方を明確にしましょう。



意見を引き出す

- ・質問などで参加者の意見を引き出し、積極的参加を促します。
- ・司会者はできるだけ全員が発言できるように気を配りましょう。
- ・もし、話し合いの内容に関する情報や知識を持っていない人がいれば、それらを与える説明をこの段階でする必要があります。

結論を導く

- ・出された意見を、分類・整理し、一つずつ話し合い、結論に導きます。
- ・意見の相違点、みんなの納得や同意が得られる点、結論に必要な意見、問題点などについて、話し合います。
- ・多くの人が納得するところから片付けて、質疑応答などから、みんなが納得できる範囲や解決策を探りましょう。

まとめ

- ・話し合いで、意見がまとまった点、まとまらなかった点をふりかえります。
- ・話し合いの過程で出された意見や問題点、結論をどのように生かしていくかなどを参加者全員が分かるように整理し報告します。また、結論に達するのに役に立った意見や少数意見についても触れておくとうい良いでしょう。
- ・最後には、次回の話し合いへの整理や、今回の話し合いで決まったことの実行の確認をしておきましょう。

こんなときはどうする！

ちやかすような意見を言ったり、不真面目な意見を言う人がいる。



- ・会議の目的を、わかりやすく説明し再確認する。
- ・それでも駄目なら議題や会議の内容に不満があるかもしれないので、個別に話を聞いてみて、理解を求める。
- ・不真面目な意見に、まじめにつっこみを入れることで本人が懲りる。
- ・それでも駄目なら休憩にし、リフレッシュする。

(5) より良くするための工夫

話し合いを心地よいものにする

話し合いというと、少々難しいもののように思うでしょうが、様々な工夫で気持ちをほぐすことが可能です。

音楽や飲食物などの提供

音楽を流したり、お茶やお菓子などが自由に飲食できるようになっていたりすると、気持ちに余裕が出て、リラックスでき、話し合いが始まるまでの時間をリラックスして過ごせます。

また、話し合いの途中においても、話し合いを妨げないようなタイミングでのお茶やお菓子の提供は有効です。

アイスブレイキング

アイスブレイキングとは「氷の塊を解かす」、つまり、参加者の氷のように固い雰囲気をはくすために行われる活動のことです。例えば、自己紹介の工夫、ソングやレクリエーションゲームなどです。

アイスブレイキングによってなんとなくよそよそしかった参加者同士が打ち解け、話し合いがしやすくなります。

仲良くなるための工夫

＝グループの雰囲気づくり



たまには親睦行事をやってみては

- ・たまにはテーマを決めて話し合い以外のこともやってみる。活動と直接関係がないことでもOK！
- ・お互いの特技を出しあってみる。スポーツ、アウトドアクッキング、クッキー・ケーキ作り、クラフト、キャンプ、ハイキングetc.



レベルアップ・ステップアップそして仲間も増える

- ・いろいろな研修会に皆で参加する。自分のためにもなるし、グループで共有できるので、活動の活性化には効果的である。しかもそこに来ている他の参加者との仲間づくりができる。おすすめは、県立青少年センター、県立清川青少年の家の研修ですね。⇒資料集 P.98参照

6. グループの雰囲気づくり

仲良しクラブでは困りますが、メンバー間で何でも言える雰囲気がないと、いいものは生まれません。活動にも支障が出ます。そこでグループの雰囲気づくりをするための方法をいくつか紹介します。

(1) アイスブレイキング

初顔あわせのときにいきなり本題に入るような話し合いをしても、うまくいかないことがほとんどです。そこで雰囲気をやわらげたり、緊張をほぐすために、いくつかゲームなどをやってみるとよいでしょう。

(2) 名前を覚えるゲーム

初対面の人や顔はわかるけれど名前を知らないという人同士のグループの場合、まずはお互いに名前を覚えることが基本となります。名前がわからないと声もかけにくいですし、それこそ雰囲気が悪くなります。そこで楽しみながら名前を覚えることができるゲームをやってみましょう。

※(1)(2)について、市販のゲーム集などが参考になります。

例えば、『みんなのPA系ゲーム243』（樁杏林書院発行、諸澄敏之編著）があります。⇒資料集P.100 参照



(3) 自己紹介

新しいクラスになったときに、最初の自己紹介ほど憂鬱なものはないと思っていた人が多いのではないのでしょうか。そこで楽しく実施する方法を紹介します。まず(1)(2)のゲームをやってからの方が、よりスムーズに行くでしょう。

ペアで

【ジャンケン自己紹介】

2人組で互いに名乗った後、ジャンケンをして勝った方が質問できることにします。ジャンケンの回数は、同じ相手に1回だけでもよいし、時間があれば3回にしてもかまいません。また質問項目を決めておく方法もあり、例えば、趣味・好きな食べ物・家族など。制限時間（10～15分）内に何人でも相手を変えてやってみるとよいでしょう。

【福笑い】

2人組で向かい合い、A4用紙にサインペンで相手の似顔絵を描きます。その際に紙を見ないで（下を向かないで）、相手の顔だけ見て2人で同時に描きます。見ないでも結構上手に描けます。描き終わったら、相手に見せてあげます。自然と笑いが出ます。その後自己紹介をします。相手に質問する形式にしてもよいでしょう。

【自己紹介デート】

1 週間で何人とデートできるかというもの。各曜日にテーマを決めておき、曜日ごとに相手を探し、互いに名乗った後、そのテーマについて話をするかまたは質問を相手にしてもらいます。例えば、日～月まで順番に「好きな食べ物」「趣味」「好きなスポーツ」「マイブーム」「家族」「住んでいるところ」「印象に残った旅行先」。縦に名前を書く空欄、横に曜日とテーマを入れた下の表を作っておくと便利です。各曜日の制限時間（3 分程度）を決めておき、その中で何人でも相手を変えていいことにします。A5 版ぐらいの大きさの用紙にして、一人 2,3 枚渡しておくといよいでしょう。

曜 日	日	月	火	水	木	金	土
氏 名	好きな食べ物	趣 味	好きなスポーツ	マイブーム	家 族	住んで いるところ	印象に残った旅行先

少人数 (6,7 人) で

【質問タイム】

6,7 人のグループを作り、順番を決めて、一人の人に対して全員が質問をします。1 周したらまた次の人に対して、全員で質問をして、それを繰り返し全員が質問されるようにします。

【お絵かき他己紹介】

画用紙（再生紙でもよい）とクレヨン（なければ色鉛筆や水性マジックセットでもよ

い)を用意します。6人(偶数がよい)グループを作り、テーマを決めて、10分程度でそれぞれが絵を描きます。このときうまく描いてもらう必要はありません。恥ずかしがらず描くように言います。テーマは例えば、「好きなこと」「休みの日によくしていること」「趣味」「子どもの頃、一番楽しかった遊び」etc. 10分程度の時間で描き終わったら、グループ内でペアを作り、相手にその絵を見せて説明することで、互いに自己紹介をします。それが終わったら、ペアの相手がグループ内で、その絵を使って相手の紹介をします。※「福笑い」を使っても同様に他己紹介ができます。

【ヒーローになりたい】(なりたかった職業でもよい)

6,7人のグループを作り、なりたいヒーロー(アニメのキャラクターなど)をたくさん思い浮かべてもらいます。順番を決めて、そのヒーローを発表し、なぜなりたかったのかも言います。そして次の人に回します。1周しても終わらず、制限時間(6,7分)内は何周もします。

多人数(10人以上)で

【お題拝借】

テーマを決めて、それについて各自発表します。例えば「恥ずかしい話」「他の人は体験してないと思う体験」「自分が今持っているものの由来」「休みの日の過ごし方」「現在熱中していること」。このようにテーマを決めると話がしやすいものです。

(4) 本音でつきあうために



グループ力を高める

話し合いをしても本音で意見を言えない雰囲気だと、だんまりの会議になってしまいます。また活動の場面で言っておけばよかったことを言えずに、思わぬ失敗をしてしまうこともあります。それが活動時の事故につながることもあり得ます。

そうならないために、グループの和を高めるための活動を行います。グループでできる課題達成をするような活動(プロジェクトアドベンチャー、グループワークトレーニングetc)を会合のたびにやってみるという方法があります。皆が協力しないとできないような活動やゲームです。皆が自然と意見を言いあい、工夫するようになっていきます。

※どんな活動があるのかについて、以下に参考図書に掲載しておきます。

『プロジェクトアドベンチャー入門 グループのちからを生かす』

(C.S.L.学習評価研究所発行、プロジェクトアドベンチャージャパン著)

『協力すれば何かが変わる一統・学校グループワーク・トレーニング』

(横浜市学校GWT研究会著)

『体験学習の手引き』(神奈川県立青年の家発行)

(『体験学習の手引き』については、市販されていませんので、県立青少年センター指導者育成課(045-263-4466)までお問い合わせください。)

Ⅱ 活動に必要なもの

さあ子どもサポーターとして活動しよう！
さてどんなことが必要なのかな？
仲間も探さないといけないし、
どうしたら集められるだろう？
よし、調べてみよう！

1. 情報を発信する……P.26
2. 場所を探す ……P.32
3. お金を扱う ……P.37
4. 協力してくれる人を探す ……P.40
5. 安全を考える ……P.42



1. 情報を発信する

どのように情報を発信していけばよいのだろう？目的や方法を整理して考えてみよう！

(1) 仲間集めは、口コミからはじめよう！

仲間集めは口コミが一番！

※口コミ＝直接声をかけること

どんな活動においても人がいてはじめて活動できるものです。まずは中心となるメンバーを集めることから始めましょう。広く一般的に呼びかける

より、自分の周りにきつと協力してくれる人がいるはず。この人と思う人へアプローチするのが効果的です。普段あまり話さない相手でも友人を通じて声を掛けてもらうのも有効です。



相手の自主性を引き出すような誘い方が効果的

ここで気をつけたいのは「お願ひ型」にならないこと！活動を進めるにあたって「言いたい事が言いにくい」関係が生まれることもあります。次のような言い方で誘ってみたらどうでしょうか。

「私はこんな活動をしようと思っているけど、あなたも一緒にやってみない？」

自分たちの活動について、できるだけ簡潔にわかりやすく、説明するといいいでしょう。

学校の先生や施設のスタッフにも協力してもらおう

学校や公共の施設にポスターを貼ったり、チラシを置いてもらうのもよいでしょう。幅広く仲間を集めたい場合は、「(4) 効果的な広報手段」(P.29) を有効に活用していきましょう。

嘘や誇大広告はいけません！ 正直に話しましょう！

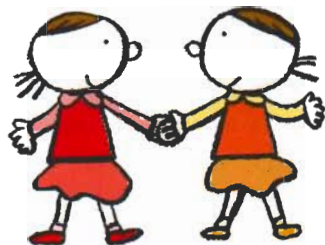
- ・最初に背景となる事情を説明しておくことで、協力者は納得して活動でき、関係もうまく築きやすくなります。
- ・くれぐれもリップサービスは禁物。最初はいいけれど、後で人が離れていきます。



② 参加者集めもロコミから

参加者募集もロコミがいい！

お祭りやスポーツ大会などのイベントでは、参加者が集まらないことには始まりません。はじめは友達などを通じて楽しさや面白さを広める、ロコミがいいでしょう。参加者にとっても参加するイベントに知り合いがいることで安心感をもって参加しやすい気持ちになります。一度楽しい思いをしてみれば、更なる友だちを呼び込んできてくれて活動が広がっていきます。



リピーターばかりでは・・・

※リピーター＝過去に参加している人

いつまでも仲間うちでは活動が広がりません。また、フリーマーケットやバザーなどの不特定多数の参加者を集うときは広域に情報を発信できるチラシや広報紙に掲載してもらう工夫が必要です。

参加者名簿を忘れずに

募集人数等が決まっているようならば、**参加者名簿を忘れず**に作成しましょう。災害や事故発生時の確認名簿や保険加入時の名簿にもなります。また参加者の統計をとる時にも役に立ちます。「氏名」、「連絡先」は最低条件として、活動に応じて「年齢」や「学校名」など確認することもあります。

個人情報の保護・管理には 十分注意しましょう！

- ・現在は個人情報の流出による悪用が大問題になっています。その保護は重要であり、提出してもらう個人情報は必要最低限にしましょう。
- ・必ず使用目的を明記の上、「ご記入いただいた個人情報は、法令に基づく場合を除き、本人の同意なしに上記以外の目的には利用しません。」などの一文を入れておくことが大切です。
- ・スタッフは、お互いに情報管理に十分注意しましょう。



その情報をねらう悪い奴がいる

※個人情報とは、氏名、電話番号、メールアドレス、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるものを言います。個人情報は「個人情報の保護に関する法律」によって、保護されています。

(3) 自分たちの活動を知ってもらう（応援団を見つけよう！）

よりよい人間関係を築くことで活動もスムーズになります。「活動を知ってもらう＝地域で顔をつなぐ」ということになります。

応援団＝よき理解者

情報を発信する相手は何も仲間や参加者だけとは限りません。自分たちの活動を応援してくれる人たちにも情報を発信していくことは大切なことです。活動を知ってもらうことは活動を広げる要因になっています。

家族を味方につけよう！

まずは家族に自分たちの活動を知ってもらい、理解を得られればより活動しやすい環境になるでしょう。また、地域の協力者を紹介してくれるかもしれません。

近所にも応援団がいる

近所に地域活動に積極的な人がいれば是非声をかけたいものです。そのような人に活動に対する熱意が伝われば、近隣の有力者などにも顔をつないでもらえるでしょう。近隣の有力者に活動を知ってもらうことも大切です。有力者というのは、町内会の会長(役員)、子ども会育成会の会長(役員)や学校の校長先生などです。こうした人々は地域の情報をたくさん持っていたり、また地域への情報の発信源にもなっています。自分たちがやろうとしていることを説明して、理解してもらえば何かと協力してくれることでしょう。



行政職員を味方につければ、鬼に金棒！

市区町村の青少年担当課や青少年施設の職員がよき理解者になってくれると

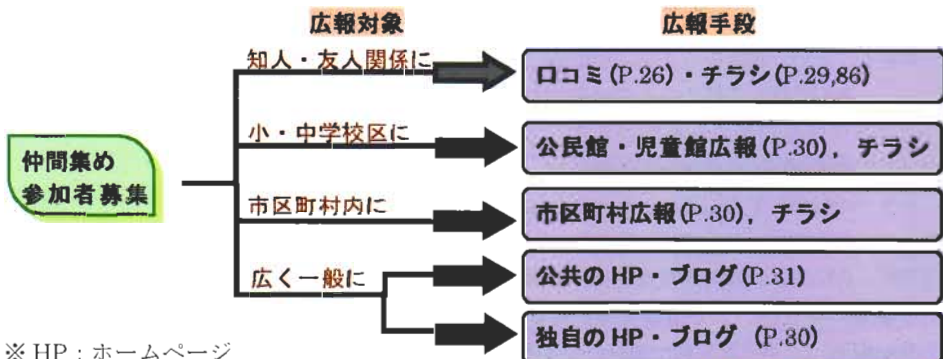


- ・いろいろな情報が手にはいる。
- ・活動について、相談に乗ってくれる。
- ・活動をコーディネート（調整して整える）してくれる。
- ・広報のお手伝いをしてくれる。
- ・地域活動をしている人を紹介してくれる。



(4) 効果的な広報手段

どんな対象にその活動に参加してほしいかによって広報手段が変わります。



※ HP : ホームページ

※独自の HP : 自分たちのグループのホームページ

※ブログ : 作者の個人的な体験や日記をインターネット上に公開したもので、書き込みが可能になっている。

(1)(2)で述べてきたロコミは身近な人(知人・友人)への広報手段です。場合によっては、チラシを作成して配布する方法もあります。よりビジュアルになって、活動がどんなものかを説明しやすくなります。チラシづくりについて以下に述べます。



効果的なチラシづくり

情報の発信として最も一般的なのがチラシ広告です。各自が自由に創作し自分たちのグループの特色を出せるのも魅力の一つです。効果のあるチラシ作りの基本を知り、誰に何を伝えるのかを明確にすることによって、手に取ってくれる人が増え反応してくれます。

これだけはチラシに載せておくこと

- ・ **タイトル** (子どもも親も目を引くキャッチコピーがよい)
- ・ **主催** (自分たちのグループ名/どこがこの行事を行っているのか/共催・後援があれば載せる)
- ・ **会場** (必要があれば、集合場所も/紙面に余裕があれば地図も載せるとよい)
- ・ **日時** (受付時間、開始時間、終了時間)
- ・ **対象/定員** (必要に応じて載せる)
- ・ **申込/問い合わせ先** (連絡の取れる電話番号は最低限必要)
- ・ **内容** (紙面に余裕があればできるだけわかりやすい説明を載せる)
- ・ **その他** (必要に応じて、参加費の有無・持ち物・服装・注意事項を載せる)

※参考までに資料集 P.86 にチラシの例を掲載してあります。

まずはいいものを真似してみよう！

そこで、まずチラシ作りに取り掛かる前に既存のチラシをいろいろ集め、どんなチラシが目を開くのか、どのような表現・内容が分かりやすいか、用紙のサイズや色、レイアウトなどを良く研究することから始めましょう。そして、まずは魅力的なチラシの真似から入っていくと良いでしょう。真似は決して悪いことではありません。ただし、写真やイラストを勝手に使用することは著作権法で禁じられています。

チラシの配布にも工夫が必要！

チラシの配布も工夫しましょう。やたらにチラシを配布してもその効果は低くチラシの無駄になってしまうので、どの範囲に配布をするのかも大切なポイントです。町内の回覧板や掲示板、児童館・公民館、近隣の学校などは比較的協力を得られやすいところです。また大きなイベントや事業の場合は、公共施設・青少年担当課等に共催・後援してもらえれば公共機関へのチラシ配布は、各市区町村で独自の公共機関への配送システムがあるので協力してもらえます。青少年担当課などの職員に相談してみましょう。

チラシ配布は事前に許可を得る！

- ・学校でチラシを配布してもらう場合には学校長の許可が必要で
す。事前に学校に連絡して、お願いしましょう。
- ・生徒数分のチラシを用意しておくことも忘れずに！



公民館・児童館等の広報誌に！

地域の公民館で発行している広報紙には、地域情報を掲載する欄があります。タイミングがあれば、掲載してもらえる可能性があります。公的な広報誌は経費もかからないし、確実に地域に配布されるものなので必要に応じて上手に活用していくことをおすすめします。また児童館のチラシ等はより地域に密着したものです。指導員に聞いてみて、可能なら掲載してもらいましょう。

市区町村広報誌に掲載してもらうには

市区町村の広報誌は、月1回または2回発行されています。その自治体の行事についての広報がほとんどなので、一団体の行事についての掲載をしてもらえることはほとんどありません。しかしその自治体と協働で実施するもので、共催・後援という形であれば掲載してくれる可能性はぐんと高くなります。公共施設や青少年担当課などの職員に相談してみましょう。

※広報に掲載する場合、掲載内容の締切日が掲載月の2ヶ月前など市区町村によって締切日等が違ってくるので確認しておきましょう。

インターネットの利用

市や町全体あるいは県全体に広報したいときには、インターネットによる広報が有効でしょう。まずは行政や公共の施設が持っているホームページ等で情報を発信させてもらうことが良いでしょう。またネット上で情報を発信するにもホームページ、掲示板、ブログなどさまざまな方法があります。

市区町村の情報が掲載されている 主なホームページ、掲示板、ブログ



- ・神奈川県生涯学習情報システム
(PLANETかながわ)
- ・各市区町村の「生涯学習センター」「市民活動支援(サポート)センター」
「ボランティアセンター」など
- ・神奈川県青少年協会のユースネット(登録制)

※インターネットが普及する一方でネット上のトラブルが後を絶ちません。掲載内容等(特に個人情報)をよく確認してトラブルにならないよう心がけましょう。

※詳細は直接ホームページ等を管理している機関、団体等に確認してください。活動内容や規模によっては、掲載してもらえない場合もあります。

(5) 人から人へ ~ ネットワークを広げよう

一人もしくは一団体の力ではできないこともネットワークを活かし協力を求める事で足りない部分を補う事が可能です。

積極的に関わってみよう

「ネットワーク(人と人とのつながり、グループとグループのつながり)」というものは勝手にできあがるものではありません。自らが積極的に行動することでネットワークを築くことができます。ネットワークを広げていく方法としてはいろいろありますが、まずは、一番身近である市区町村での公的講座や集会が気軽に参加することのできる場であると思うので、積極的に参加してみましょう。きっと、新しい仲間を見つけられることでしょう。

※研修・講座情報は資料集 P.98 に掲載しています。

ギブ&テイクを大切に

ネットワークは人と人の繋がり、お互いの信頼関係で成り立っています。相手の立場や状況を認識し、よい関係を作っていきます。また、自分で関わられる能力の範囲内で関わりを持つようにしましょう。自分ができることとできないことを明確にしたうえで関係を築いていくことが大切です。

マナーを大切に!

- ・自分のできる範囲で関わりを持ちましょう!
- ・依頼された(依頼を受けた)仕事は責任を持って行いましょう!
- ・連絡は密に!すばやく対応しましょう。メールなどの返事も迅速に!



2. 場所を探す

活動を始めるにあたって、中心となるメンバーが会議・打ち合わせを行うための場所が必要となります。また活動を展開する会場選びも必要です。

(1) どんな場所が必要か

拠点となる場所の確保

メンバーがいつでも気軽に集まれる拠点となる場所があると、集まりも自然と多くなり活動も活発になっていくことでしょう。メンバー内で話し合いお互いが無理なく通える場所（集まりやすい場所）を探しましょう。



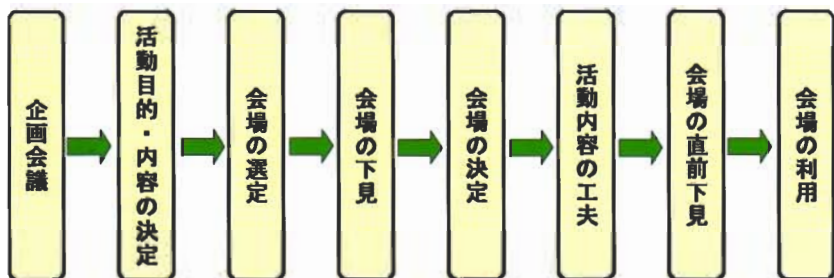
目的や内容にあった会場選び

イベントを開催する際、より効果的に活動を展開できるように活動の目的や内容にあった会場選びが大切になってきます。単に施設の概要だけで判断するのではなく、下見を行い会場の設備や交通条件などを考慮して決定していきましょう。また、直接施設に問い合わせをして活動内容（目的）と施設の機能があっているか、実際に活動が可能なのかを相談してみると良いでしょう。

会場を選定する際のチェックポイント

- | | | |
|--|--|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 遊休地・屋外などの活用 | <input type="checkbox"/> 類似施設や民間施設の活用 | <input type="checkbox"/> 参加しやすい |
| <input type="checkbox"/> 交通機関・方法 | <input type="checkbox"/> 駐車場の有無・台数 | <input type="checkbox"/> 移動の方法 |
| <input type="checkbox"/> 引率の人員配置 | <input type="checkbox"/> 受入体制 | <input type="checkbox"/> 自然環境 |
| <input type="checkbox"/> 施設、設備や周囲の状況 | <input type="checkbox"/> 安全・衛生 | <input type="checkbox"/> 緊急時の対応 |
| <input type="checkbox"/> バリアフリー（障害者用設備、段差など） | <input type="checkbox"/> 更衣場所 | <input type="checkbox"/> 食事 |
| <input type="checkbox"/> トイレの有無 | <input type="checkbox"/> 申し込み期限・開始日 など | <input type="checkbox"/> 使用料(減免)、経費 |
| <input type="checkbox"/> 施設特有の事項 | | |

会場・施設を利用するまでの流れ



会場・施設の探し方

身近なものとしてはタウンページや市区町村で発行している「〇〇タウンガイド」などがあります。インターネットで検索する場合は、市区町村のホームページの施設情報サイトを見るのも良いでしょう。県内の施設を分野別に紹介しているホームページのサイトもありますので参考にしてください。また、利用したことのある人に意見を求めるのもよいでしょう。

施設・会場情報をネットで探してみよう！



以下について、検索サイトで検索してみましょう。

- ・子ども情報センター（イベントや会場を探そう）
- ・神奈川県生涯学習情報システム（PLANET かながわ）
- ・ハマスポどっとコム（施設情報）
- ・（財）神奈川県厚生福利振興会（かながわの公共施設）
- ・（社）神奈川県観光協会
- ・（財）神奈川県公園協会（公園サーチ）

(2) 場所を確保するときを確認しておきたいこと

まずは問い合わせ

施設利用には施設ごとに利用の規則や条件などが定められています。利用を希望している施設に問い合わせましょう。



確認しておきたいこと（チェック表）

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 成人の責任者（引率者）は必要か | <input type="checkbox"/> 未成年利用の際、保護者の同意は必要か |
| <input type="checkbox"/> 利用申込の期限・開始日 | <input type="checkbox"/> 団体登録制かどうか |
| <input type="checkbox"/> 使用料・経費はどうか | <input type="checkbox"/> 使用料の減免の条件 |
| <input type="checkbox"/> 利用申込後は抽選制かどうか | <input type="checkbox"/> 利用定員は何人か |
| <input type="checkbox"/> 事前打ち合わせの有無 | |

※「減免」とは、一定の条件により利用料金を軽減（割引）したり、免除（無料）にすること。

※会場・施設を利用するまでの流れの詳細については、「地域活性工場産『元気の缶詰』」（神奈川県青少年指導者養成協議会、平成18年3月発行）のP.112に掲載されています。県立青少年センターにお問い合わせください。

利用に際して忘れてはならないこと！



- ・利用の手引きがあれば前もってもらっておくこと。
- ・「減免」の条件は、「市区町村の共催・後援」「在住・在勤・在学者が代表者」「在住者の割合」などがあるので、必ず確認すること。
- ・事前打ち合わせの際、活動内容（プログラム）やタイムスケジュールなどを用意しておくこと。
- ・「会場係」などの名称で係を決めておき、早めに予約したり、メンバーへの連絡をすることを忘れずに！
- ・施設の担当職員と仲良くなり、連絡を密にしたり、相談したりすること。

(3) 探せばあるあるこんな活動場所

公共の情報誌やインターネットに出ていないような施設もわりと身近な場所にあるものです。

地域の集会場や自治会・町内会館

地域の活動のために設置されているので、地区長や自治会・町内会長などの管理者に相談してみましよう。

ファミリーレストランやファーストフード店等

立派な集会場になります。ドリンクバーなどを利用してたまには息抜きを兼ねてのんびりと話し合うのも良いでしょう。意外と良いアイデアが生まれるかも……。ただし、お店と周りのお客さんに迷惑を掛けないうマナーを守ることを心がけましよう。

予約フリーなスペース

例えば、横浜市青少年交流センターの青少年交流スペース・ワークルームのように、空いていれば自由に使えるスペースを提供している施設もあります。また公共施設の待合所などは少人数であれば短時間の話し合いに利用可能でしょう。ただしマナーを守ることを心がけましよう。他にも予約なしにフリーで活動できるスペースもあるので、P.33 のホームページ等で調べてましよう。



(4) 施設を実際に利用する際に

施設職員は施設内外の環境を熟知

施設は打ち合わせの会場やイベント会場としての場所だけではなく、施設の職員やスタッフを有効に利用しましょう。施設職員は施設内や施設周辺の環境を熟知しておりいろいろな活動の相談ののってくれます。

施設職員のアドバイスを受けよう！

野外活動やボランティア活動など専門の職員が常駐している施設もあるので、思わぬアドバイスや気づきを与えてくれることもあります。指導者として活動を支援してくれる場合もあるので、活動内容の紹介をしたり、課題や疑問を相談しながら良い人間関係を作っていきましょう。きっと、強力な応援団になってくれます。

施設利用の心得

- ・施設を利用するにあたってマナーを心得ておくことも大切なことです。
- ・施設を利用する際は施設職員の指示に従い、清掃・片付けなどをきちんとして、次に使う人が気持ちよく使えるように心がけましょう。
- ・報告書等がある場合はしっかりと記述して提出しましょう。
- ・利用の予約を入れる時もやみくもに予約を入れるのではなく、他の人のことも考え計画的に利用予約をしましょう。
- ・都合が悪くなりどうしても利用が出来ない場合は必ずキャンセルの連絡を入れましょう。



以上を守れば、施設職員ともよい人間関係ができ継続して利用しやすくなります。

(5) 公園や路上を利用するときは

フリーマーケットって、勝手にできるの？

路上ライブの開催やガード下をダンス練習場にしたり、公園を使ってフリーマーケットやスケボー大会などイベントを開催するときは、特別な許可を必要とすることがあります。歩道や車道など公道での活動は、所轄する警察署の許可が必要になります。許可を取らない活動や行為、物品販売行為などは、道路交通法で禁止されています。また、公園での活動も、管理している自治体に許可申請を行う必要があります。詳しくは近くの警察署や公園管理事務所等の関連部署に確認を取りましょう。



道路使用許可の対象は？ (道路交通法第77条第1項)

道路使用許可の対象となる行為は、次のとおりです。

- ①道路において工事又は作業をしようとする行為(第1号)
- ②道路に石碑、銅像、広告板、アーチ等の工作物を設けようとする行為(第2号)
- ③場所を移動しないで、道路に露店、屋台店等を出そうとする行為(第3号)
- ④前各号に掲げるもののほか、公安委員会が定める一定の行為(第4号)

* ④の具体的な行為については、祭礼行事、集団行進、ロケーション等があります。

※道路使用許可申請には手数料がかかります。

詳しくは『道路使用の手続き』(神奈川県警察ホームページに掲載)をご覧ください。

公園内行為の申請について

都市公園内で集会等、条例で定める行為を行う際には**公園内行為許可申請書**の提出が必要です。詳しくは市区町村の公園管理事務所にお問い合わせください。



3. お金を扱う

何か活動しようとするときに、どうしてもお金がかかることがあります。でも、お金を扱うことは、たいへん難しいことで、トラブルの原因になったりすることもあります。

(1) どんなお金が必要か

お金のかからない活動を考えよう

はじめのうちは、できるだけお金をかけずに活動することを心がけましょう。

どんなお金が必要か

みなさんの扱うお金には、「収入」（入ってくるお金）と「支出」（出ていくお金）があります。収入には、「会費」、「助成金」、「参加費」や「繰越金」（前の年の余ったお金）などがあります。一方、支出には、大きく分けて「運営費」と「事業費」があります。

「運営費」は、会議などの日常的な活動のために必要となるお金です。それに対して「事業費」は、イベントやキャンプなどの特別な事業にかかるお金と考えてください。



会計に必要なもの

【会計係】

誰かひとり、会計の責任者をしっかりと決めておきます。

【会計用のノート】

お金の出し入れを記録するノートを1冊用意します。お金を扱ったときには、必ずそのつど記入しておきます。

【クリアブック】

レシートや領収書はなくしやすいものです。また、いろいろなレシートをまとめて保管しておく、あとで整理がやっかいです。透明のフォルダーがノートのように縦じてあるクリアブックを1冊用意し、イベントごとに整理・保管しましょう。



(2) 運営費って何？

広報に必要な印刷費

たとえばみなさんの活動をたくさんの人に知ってもらったり、イベントの参加者を募集したり

するために、チラシやパンフレットを作る場合があります。そのためには印刷費やコピー代が必要となります。

連絡のための通信費

スタッフ同士では携帯やメールを使った連絡ができますが、子どもたちに連絡する場合には、保護者の人にも見てもらうために手紙を送ることもあり、郵送料（通信費）がかかります。



活動場所と施設利用料

あと、活動場所が確保できたとして、そこを使うためには利用料がかかるという場合もあります。これは、会議費や施設利用料となります。

お金がかからない方がいいに決まってる！



工夫の仕方で、こうした支出の額を減らすことも可能です。

たとえば施設の利用については、青少年団体やボランティア団体ならば、減免といって、割引や免除（払わなくてもOK）という施設もあります。また県や市町村の「ボランティアセンター」では、印刷機を無料で使わせてくれるところもあります（ただし、用紙は自分たちで用意します）。さらに、市町村や他の団体との共催などの方法をとれば、そうした費用を負担してもらえる場合もあるかもしれません。いろいろな方法を探ってみましょう。

(3) 参加費と会計報告

事業費は、それぞれの事業やイベントにかかる費用ですが、そのためには参加費を集める場合があります。参加費を集めるときには、次のようなことに注意しましょう。

参加費ははっきり表示する

参加費を集めるときには、まず事業の案内や参加募集のチラシの中に、その金額と内訳をはっきりと書きます。たとえば、「参加費：3,000円（宿泊費、食費、保険料、通信費、その他）」などと書きます。

お金は保護者を通して

お金を集めるときには、事前説明会を開いて、保護者から直接お金を受け取り、必ず領収書を渡します。子どもたちを通してお金のやりとりをするのは、トラブルの原因になるのでやめましょう。トラブルになるとみんなも困りますが、それ以上に子どもを傷つけることになってしまいます。

余裕のある計画に

それから赤字にならないようにするためには、少し余裕をもって多めに集めます。でも多めに集めたからといって、無理に必要なものまで買って金額を合わせようとするのは問題です。お金が余ってしまうのは恥ずかしいことではなく、むしろじょうずな使い方をしたということになります。

残金の扱いは慎重に

あまったお金を残金といいます。その扱い方もみんなできよく考えましょう。額が大きければ、できるだけ返金することを考えます。また、額が少ない場合には、繰越金として今後の活動に使わせてもらうという方法もあります。いずれにしても、残金をどのように扱ったかということは、最後の会計報告にしっかりと書いておきます。

会計報告はとても重要 ⇒ 資料集 P.89 参照

事業が終わったら、会計報告を作ります。それは保護者に渡しますが、共催や助成金をもらった場合には、関係する役所などに提出することもあります。会計報告には買ったものの単価（商品1個の金額）などは記入しませんが、聞かれたらすぐに答えられるよう、領収書やレシートはしっかりと整理・保管し、そのコピーを必ず会計報告につけておきます。学校の文化祭と同じですね。

備えあれば憂いなし！

＝あとになってあわてないように

あとの整理のことを考えると、買い物は計画的にまとめてするようにして、領収書の枚数を少なくします。

助成金をもらったときの会計報告などでは、「レシートではダメ！」という場合があります。面倒でも領収書を発行してもらいましょう。また、グループの買い物と自分の買い物を一緒にしてしまったりすると、あとでレシートの整理がとてもやっかいになってしまいます。気をつけてくださいな。



(4) 助成金という方法もある

助成金という言葉はあまり聞いたことがないかもしれません。役所の関係する組織やいろいろな団体・NPOが、特定のテーマに取り組んでいるグループに対して、活動費を提供し応援していくというものです。これにはいろいろな制限のある場合が多く、簡単にお金をもらえるわけはありませんが、調べてみる価値はあると思います。

助成金を出している団体のホームページや、助成金情報を集めた **(財) 助成財団センター** (<http://www.jfc.or.jp/>) のホームページを参考にしてください。

4. 協力してくれる人を探す

情報の集まる場所を探すことから始めましょう。必要な情報の多くが集まり、効率のいい情報収集のできる場所が必ずあります。そして、そこには人がいます。そういう人に協力してもらいましょう。

(1) 情報収集のコツ

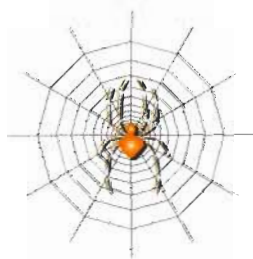
情報の集まる場所をねらえ！

活動に必要な情報は、待っていても集まってきません。自分から探しに行かなければなりません。でも、ただむやみに探しまわっても、効率のよい情報収集はできません。

情報の集まる場所が必ずあります。そしてそこには、市の職員、公民館の館長さん、児童館のボランティアさんなどがいて、そういう人を協力者にとすると、みなさんの活動にとっては強力な味方になります。

くもの巣ネットワークを使え！

市町村の担当者や施設の職員に相談すれば、みなさんが必要とする情報はたいへい手に入ります。また、そうした人は個人的なネットワークを持っていて、そこではわからない情報でも、そのネットワークを使って調べてくれたり、他に詳しい人を紹介してくれることもあります。いろいろな人のネットワークを使えば、それがくもの巣のようになってたいへい情報はそこに引っかかります。だから、みなさんの情報収集の第一歩は、こうした人から始めるのがいいと思います。



個人情報について ⇒P. 27参照



最近、個人の情報が外に漏れて、それが犯罪などに使われる事件が多発しています。そのため現在では、個人情報の取り扱いには十分注意を払うことが必要になっています。特に役所にはいろいろな個人情報が集まりますので、職員はその扱いに慎重になります。だからみなさんが必要とする情報が個人情報に関わるような場合、思うとおりにいかない場合もありますが、それは理解してください。

(2) 協力者を探せ

まず最初は、役所の青少年担当者から

多くの市町村の場合、「教育委員会」の中に「青少年課」や「生涯学習課」などがあり、そこには青少年を担当する職員がいます。市によっては、教育委員会以外のところもありますが（詳しくは、資料集 P.101 参照）、どちらにしてもみなさんの一番身近な協力者になります。

施設職員はみんなの窓口

どの地域にもいろいろな施設があります。施設には、必ずそれを管理して運営する職員がいます。施設には毎日たくさんの人が訪れ、それとともにたくさんの情報が施設に集まってきます。だから施設職員の中には、ものすごい量の、みなさんの役に立つ情報をもっている人もいます。そんな人がいたら、なにがなんでも仲良しになってしましましょう。

子どもサポーターのサポーター！？

どの市町村にも、青少年指導員という人たちがいます。地域によっては、青少年育成推進員などと呼ばれたりしています。その仕事は、地域で何か活動をしている若い人たちをサポートすることで、つまり「子どもサポーター」の「サポーター」です。

青少年指導員は、市町村の中のさらに細かい地域の中で活動をしています。よく地域のお祭りやイベントなどで中心になって動いていたり、ジュニアリーダーのお手伝いをしたりしていますので、みなさんも会ったことがあると思います。誰が青少年指導員かは役所に問い合わせればわかることです。青少年指導員に協力依頼しましょう。

地域の大人発見方法

地域には、いろいろな知識や技術をもった大人の人がたくさんいます。その人たちを協力者にするためにはまず自分たちが必要とする人たちを地域の中から探し出さなければなりません。

そうしたとき、先ほどの役所の担当者や施設職員の人たちのもっている情報がとても役に立ちます。また、指導者やボランティアを探し出すためのシステムがいろいろと整備されています。そうした手段で地域の中で協力してくれる人を探すことができますが、もっと手っ取り早いのは、自分の家族に聞いてみることでしょう。びっくりするくらい近くに、思いがけない名人がいたりすることは、よくあることです。

人材バンクや指導者リストを利用しよう！



人材バンクという制度があり、特技や指導できる技術を持って
いる人をリストにしておいて、必要な人がそれを見て協力や指導を依頼する
システムです。市町村や県のホームページからも検索できるようになってい
ます。それから「市民活動（支援）センター」「ボランティアセンター」など
では、そこに行って相談をしたり、備え付けのパソコンでリストを検索したり
することもできます。市町村のホームページで探してみてください。

5. 安全を考える

どんな活動も事故が起きてしまっっては元も子もありません。安全に活動することが何より大切です。

(1) どんな活動にも危険はある

リスクマネジメント

みなさんは、リスクマネジメントという言葉を開いたことがありますか。もとは経営の用語で、会社がぶつかりそうな危険を事前に予知して、それを避ける、または軽くするための方法のことです。それが今では広い意味で使われるようになって、いろいろな活動でとても大切な用語になっています。

危険をコントロールする

危険はどこなところにもあります。野外活動に限らず、どんな所でどんなことをしていても、危険は潜んでいます。だから、危険をゼロにすることは不可能です。

でも、その危険を予知して、あらかじめそれを避けたり、避けようとする努力をすることはできます。だから、リスクマネジメントという考え方は、危険をみんなで察知して、それをみんなでコントロールしよう、ということの意味しています。



危険の種類はさまざま

みなさんがこれからやろうとしている活動には、いろいろなものがあると思います。だから、危険の種類もさまざまです。



① 自然環境による危険

台風・落雷・地震・洪水など

② 生物的な危険

毒ヘビ・ハチ・毒キノコなどの危険動植物、食中毒・熱射病などの病気

③ 人間による危険

いじめ・けんかななどの人間関係、けが・やけど・交通事故などの人為的なミスによるもの、指導者・スタッフの経験不足や無理な計画など

事故はいつでも起きる

子どもを対象にした活動でも、冒険的な活動など、はじめから危険のともなうものもあります。しかし、一見安全そうに見えても、実際には事故の起こる確率の高いものもあります。活動そのものの危険性より、その活動にどのような準備をしてどのような姿勢で入るのかによって、事故は起きたり起きなかったりするものなのです。

まずは、活動にはいろいろな危険がつきものだということを知っておきましょう。

意外なところで事故は起きる



子どもの活動中の事故については、いろいろな調査・統計があります。代表的な活動例としてキャンプをとりあげた調査結果を見ると、事故はカヌーやロッククライミングといった活動で起こることはそう多くはなく、逆に野外炊事とかハイキング、さらには自由時間などに多く発生しています。

また子どもに関わる活動全体を調べた調査によると、最も事故が多いのが、集合場所（会場）への移動中であるというデータも出ています。活動中ではなく、活動場所への行き帰りでの自転車事故などが多いということですが、集合の手段や解散後のことも活動の中に含まれており、その安全について考えるのもスタッフ・主催者の責任です。

(2) 危険を予知して、防ぐためには

危険を予知して防ぐための作業は、実施の段階ではなく、すでに活動やイベントを計画する段階から必要になってきます。

計画に危険はないか

どんなに楽しそうな計画でも、計画自体に無理があれば、それは危険な活動になってしまいます。まずなによりも、「無理のない計画」を立てることが大切です。その時考えなければならぬことには、次のようなものがあります。

- ・ 時期は適切か（気温や天候、スタッフの都合、学校行事との関係、など）
- ・ 場所は適切か（現地の安全性、現地までの集合手段、など）
- ・ 費用は適切か（参加者や保護者に無理のない設定になっているか、など）
- ・ 募集対象とプログラムの関係は適切か（小学校低学年の子どもには無理なプログラムなのに、対象を「小学生以上」などとしてはいないか、など）
- ・ スタッフの体制は充分か（人数はそろうか、経験はあるか、など）

計画段階の注意は何だ！

この段階で考えなければならないことには、次のようなものがあります。

参加者の把握

参加者がだいたい決まったところで、どんな参加者なのかをしっかりと把握します。低学年と高学年とどっちが多いか、女子と男子の割合、似たような活動への参加経験は？などということ把握します。

スタッフの役割分担

イベントや事業には、それなりのスタッフが必要となります。スタッフは数をそろえればよいというわけではなく、そのスタッフがじょうずに役割分担をして、それぞれが責任を果たすことが大切なのです。役割分担ができれば、スタッフの組織図のようなものを作ってみましょう。

持ち物の確認

案内や資料に載せる「持ち物」も、とても大切なものです。特にその活動に初めて参加するような子どもは、「必要なもの」に対する知識がないし、保護者もわからなくて不安に思っている人が多いと考えてください。だから持ち物は、「そんなのあたりまえじゃん！」というようなものまで含めて、しっかりと参加者に伝えなければなりません。

下見は絶対必要

活動をする前に、実際にその場所に行って、そこをできるだけ詳しく調べることが必要です。そのための下見は、活動に欠かせません。時期や時間をずらして、何回か下見をすることも必要です。下見で何をチェックするかを話し合い、チェックシートを作っておきましょう。⇒ 資料集 P.94 参照

(3) 備えあれば、憂いなし

安全のためには、直接活動に関係のないような作業や対策が必要となることもあります。でも、「備えあれば、憂いなし」です。

事前説明会を開く

宿泊をともなうような活動をする場合には、事前説明会を開きます。ここでは参加者の子どもたちだけでなく、保護者の人にも出席してもらいます。その場で、活動の内容、持ち物、参加費つかいぎの使い途、保険、活動上起こる可能性のある危険など、必要なことについてしっかりと説明します。もちろん、スタッフの自己紹介も忘れないように。

参加承諾書をもらう

子どもたちを対象にした活動の場合、保護者の承諾が必要となります。たとえば、参加申込書を作って、そこに保護者の承諾欄を設けるといった方法をとります。

保険に加入する

スポーツ大会や野外活動の場合には、参加者に保険をかける必要があります。そのための費用は、参加費に含めておきます。

いろいろな活動やイベントの種類に合わせた保険の商品が用意されていますので、これも役所の青少年担当の人に相談してみましょう。

ボランティア保険に加入する

グループや個人でボランティア活動に関わっているような場合には、日頃の活動全体に対してかけるボランティア保険に加入しておくといでしょう。

「神奈川県ボランティア事故共済」という保険があります。ボランティア活動中の様々な事故によるボランティア活動者のケガや、賠償責任（参加者にケガをさせてしまったあるいは他人のものを壊してしまった）などについて補償する制度です。詳細は（社）神奈川県青少年協会（045-402-0346）にお問い合わせください。

また「ボランティア活動保険」（問い合わせ先：県社会福祉協議会または各市区町村社会福祉協議会）など、他にもボランティア保険があります。



いろいろなカード・リストを作っておく

準備段階では、スタッフ用のマニュアル（運営の手引き）や参加者用のしおりなどを作ります。そうした中に、安全管理に関連するシートやリストを作っておきます。

チェックリスト

資料集 P.94 参照

見落としや忘れ物、うっかりミスがないように、各種のチェックリストを作ります。下見のリスト、準備作業の進行状況チェックリスト、当日の準備作業のリスト、安全確認のリストなどがあります。

緊急時の対応

資料集 P.95 参照

何か緊急の事態が発生したとき、まずその場にいる人間が何をするか、本部はどうするか、誰に情報を集めるか、どこに連絡するか、近くの病院はどこかなど、それを見ればとりあえずの対応が取れるようなマニュアルを作っておきます。

健康調査票

資料集 P.96 参照

参加者の健康状態を把握するため、期間中毎日提出してもらうようにします。活動によっては、前日や数日前から記入してもらうこともあります。個人情報ですので、扱いは慎重にします。

(4) もし、危険な目にあってしまったら

危険はゼロにはならない

危険を予知し、それを避けたり軽くしたりする努力は可能です。しかし、危険をゼロにすることはできません。どんなにしっかりとした計画や準備をしたとしても、事故が起きる可能性はあります。

リスクマネジメントは、危険をコントロールする方法だといいましたが、起こってしまった事故にどのような対応をするかということも、リスクマネジメントの大事な要素です。



まず落ち着くこと

トラブルや事故が起きたとき、あわてたりパニックに陥ったりするのは無理のないことです。でも、スタッフがパニックに陥ることで、参加者全員に危険が広がることは避けなければなりません。まず、落ち着くことを心がけましょう。

そのためには、「**緊急時の対応マニュアル**」(資料集 P.95 参照)を作っておいて、それに沿った行動をすることです。

ひとりで動かない

緊急時には、必ず複数の人間で対応することが必要です。だから計画の中では、スタッフがひとりしかいない状況を作らないようにします。もしその場に自分ひとりしかいない場合でも、できるだけ早くほかのスタッフに連絡をとり、集まってもらいます。スタッフが近くにいない場合には、まわりにいる人たちに協力を求めます。

ひとりでは頑張らない、ということが重要です。

自分自身の安全を確保する

緊急時には、パニックに陥ることもありますが、逆に周囲の状況をよく見ないで、むやみにその中に飛び込んでしまい、結果として助けに行った本人も事故にあうというケースが多くあります。スタッフはいろいろなことに責任をもつ立場であり、自分が事故にあったらその責任を果たすことができません。自分自身の安全を確保しながら、次に何をしたらよいかを考えます。

また、つい事故にあった子どものことばかりに気を奪われて、他の参加者に目が行き届かなくなることもあります。常に、自分自身を含めた参加者全体の安全確保を心がけましょう。

記録を残す

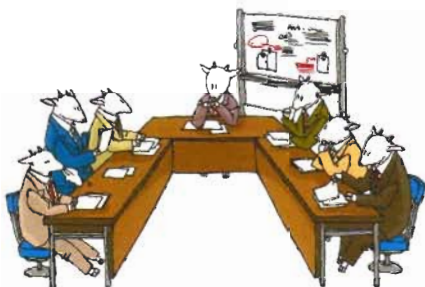
必要な対応をして、とりあえず緊急事態からは脱したところで、起こったことについてできるだけ正確に記録しておきます。あとで**報告書**のようなものを提出しなければならないような場合もありますし、今後そのような事故を起こさないための対策を考える上でも必要だからです。

内容としては、いつ、誰が、どこで、何を、どのようにしたか、それに対して誰が、どのような対応をとったか、ということをしっかり記録します。(資料集 P.97 参照)

(5) 安全について勉強しよう

スタッフ研修・ミーティング

リスクマネジメントの能力を高めるために、スタッフの中で安全に関する研修や話し合いを日頃からもちましょ。できれば、子どもたちとスタッフと一緒に研修するような機会も作りましょ。



子ども会KYT

子ども会の全国組織である全国子ども会連合会（全子連）では、子どもを対象にした「子ども会KYT（危険予知トレーニング）」というプログラムを開発しています。Kは「危険」、Yは「予知」、Tは「トレーニング」で、楽しみながら安全について考え、危険予知の能力を高めていくことのできる学習方法です。



外部の研修を利用する

リスクマネジメントはこれからますます重要となるもので、そのことに関する勉強会や研修会などがいろいろなところで行われています。巻末の資料を参考にしたり、役所の担当者に相談したりして、機会があれば外部の研修にも参加ましょ。（資料集 P.98 参照）

また、消防署の実施する救急救助講習会や、役所が企画する心肺蘇生法の講習会などもお金をかけずに参加できますし、そのような講習会でも広くリスクマネジメント全体についての話をしてくれるような場合もあります。

ここに電話してみてください！

- ・ 神奈川県立青少年センター TEL. 045-263-4466
- ・ 神奈川県立清川青少年の家 TEL. 046-288-2319



いろんな研修をやっています。また市町村でやっている研修情報もあります。気軽に電話してくださいね。



Ⅲ 活動を活性化する

最近、ぱっとしないなあ！
どうも盛り上がらないし、子どもたちもあんまり集まらなくなってきたし、考えないといけな
いかなあ。
よーし、ヒントはないか探してみよう！

- 1.活動をおもしろくする工夫
.....P.50
- 2.グループを育てる ..P.57
- 3.地域で場所を確保する
.....P.64
- 4.ネットワークを作る・・P.69



1. 活動をおもしろくする工夫

継続的に地域で活動をしていると、「ココをもっとこうしたい!」とか、「コレが変えられたら活動がもっとよくなるのに・・・。」という不満な点や改善したい点が出てくる場合があります。中にはそれらの課題に日々頭を抱え、考えただけで重い気持ちになってしまう人もいます。

しかし、これらの課題が思い当たる事って実はとってもすごいコトです。あなたがそれだけ子どもたちの事や地域の事、グループの事やメンバーのことを一生懸命に考え、活動をより良くしようとしている証なのです。本章では、そんな活動をより良くしようとしている人たちのためにいくつかの活動の活性化のためのポイントを紹介します。



(1) 面白い活動とは

活動が面白いなあ～、と感じる時ってどんなときでしょう

ここでは、Iの「佐歩太君の盆踊り大会」(P.10)のケースを例に考えてみます。佐歩太君はきっと次のようなことにおもしろみを感じたのではないのでしょうか。

仲間たちを募り、友達や周りの小中学生が協力してくれたことによって盆踊り大会に参画することができたこと



**ネットワーク作り、
仲間の協力**

最初はなかなか理解をしてくれなかった大人たちが徐々に協力してくれたこと



協力者の理解

普段は地域に顔を見せない中高生たちが盆踊りに参加してくれたこと



活動のPRの成果

最後には大人たちもパラパラに参加をしてくれ、盆踊り大会が大きな盛り上がりを見せたこと



**地域の人々に認め
られたこと**

「おもしろくないなら、おもしろくしちゃおうか」というねらいを達成できたこと。子ども達がやりたいことを実現することができたこと



ねらいの達成

ねらいの達成

行事運営やグループ活動ではこの「ねらい」がとても重要な意味をもちます。ねらいとは「参加をしてくれた人や関わっている人たちにその活動を通じてどうなってもらいたいのか？」ということです。

【ねらい（目標）の明確化⇒理解⇒共有】

Iの盆踊り大会の例では、「地域の子どもたちのために盆踊り大会をおもしろくしたい。」というねらいが佐歩太君にはありました。そしてそのねらいが集まった仲間の共通のモノとなり、それを基によさこいソーランやバラパラという子どもたちでも取っつきやすく、楽しく踊る事ができる2つの踊りのアイデアが生まれました。

【大人を巻き込む】

一緒にやりたいと賛同をしてくれる小中学生が増えてくると、最初は話を聞き入れてくれなかった大人が徐々に様子を見に来るようになり、ついに盆踊り大会の中で企画した踊りをやらせてもらえるようになりました。

【ねらいの達成】

佐歩太君のねらいは町内会の役員さんにとっても共通のモノとなり、地元の若者にも声をかけようという新たな広がりを見せ、最終的には地域の多くの人々を巻き込んで盆踊り大会を大成功に収めることができました。

【達成感⇒次のステップへ】

その成功の後には、参加した人々の満足な笑顔・また来たいという気持ち、町内会の役員さんからのありがとうのねぎらい、佐歩太君をはじめとする行事に関わってきた小中学生には達成感があつたはず。この経験によって活動をしている佐歩太君たちは、次につながる自信とまたこういう行事ができたらいいなという意欲の向上を得られたとともに、仲間や協力者に対する信頼感をお互いに改めて感じる事ができたことでしょう。

行事のたびにその行事に ふさわしい明確なねらいを持とう！

- ・ マンネリ化や参加者離れを防ぐ。
- ・ グループのやる気（モチベーション）をアップする。
- ・ おもしろい活動への第一歩になる。
- ・ 毎回新鮮で新しい展開がある。
- ・ ねらいの共有がグループ力を高める。
- ・ ねらいの達成が個人やグループを高める。



(2) 失敗や反省を活かす

反省会が愚痴や文句の言い合いになっていないか

行事などが終わると、反省会をすることがしばしばあります。自分たちメンバーだけでする反省会もあるでしょうし、協力してくれた関係団体や大人を交えてするものもあると思います。例えば、地域のジュニアリーダーの話の聞いていると、この反省会が愚痴や文句の言い合いになっているケースが少なくないようです。

「今回の行事のココがダメだった。」

「あの人が／あなたがもっとこうすればよかったのに・・・」

という自分や他の人、または環境や条件などに対する失敗や後悔、悔しきや満足に行かなかったことは、そのまま言いつばなしにしてしまっただけの愚痴の言い合いで終わってしまいます。

後ろ向きでなく前向きに考える＝不満・失敗を改善する方向へ

メンバーや協力者が互いに考えアドバイスを出しあい改善点として共通の認識を持つようにすると、失敗や後悔をこれからの活動に生かすことのできる材料に変化させることができます。

- | | | |
|-------------|---|---------------------|
| ・ 不満な点 | ⇒ | どう変えたらよりよい活動が展開できるか |
| ・ 失敗してしまった点 | ⇒ | 未然に防ぐにはどうすればよいか |

よかった点も出し合おう

反省というのは決して悪かった点ばかりを言い合うことではありません。他のメンバーの良かったところや活動のねらいに対して設定した環境やプログラムの達成できた点などのプラスの部分も、大いにたたえあい評価をし合うべきです。

- | | | |
|----------|---|---------------------------------|
| ・ 前向きな意見 | ⇒ | 活動に対する一層のやる気の向上
メンバー相互の関係の向上 |
|----------|---|---------------------------------|

反省会は気分よく終わりたい！

- ・ 愚痴や文句だけを言い合っただけで嫌な気分が反省を終えるのはなんだかもったいない。
- ・ 次回の行事や今後の活動、メンバーや協力してくれた大人との関係をよりよくするための有意義な時間にしたい。
- ・ 忙しい中で実施したのだから、疲れをいやし次の活動につながる元気をお互いにもらって、気分よく終わりたい。



(3) 現在の活動のふりかえり

ふりかえりの時間は大切!

反省点も含め、その都度活動を自身でまたはメンバーでふりかえることは、活動を活性化させるためにとても大事なことです。資料集 P.90～93 のふりかえり用紙を参考に、活動や行事をする毎にグループでふりかえる時間をぜひ設けてみてください。



ふりかえりの方法

以下のジュニアリーダーの活動を例にして、ふりかえりの方法を考えてみましょう。

ジュニアリーダーの活動事例

子ども会から毎年夏休みに依頼されている、小学生を対象にした1泊2日のキャンプという行事があります。

今年のキャンプは「参加してくれた子どもたちの一生の思い出に残るようなキャンプをしよう。」というねらいを運営するジュニアリーダーたちは考えました。話し合いを進め企画を立てていく中で、「キャンプファイヤーと野外炊事は今年まだ活動の中でやっていないからプログラムに入れよう。」ということと、「私たちは毎年カレーを作っていて飽きてしまったから今回の野外炊事はパスタを作ろう。」ということを決めました。

そして当日を迎え、ジュニアリーダーたちはプログラムに沿って一生懸命に進行をし、事故もなく無事に子どもたちと1泊2日を過ごすことができ、ジュニアリーダーたちは満足をして家路につきました。

【活動後のスタッフミーティング=ふりかえり】

以下の観点で、スタッフのふりかえりをします。

- ① 設定したねらいに適したプログラムや内容になっていたかどうか
- ② 行事に参加してくれた人たちに対してねらいが伝わったか
- ③ ねらいは達成できたか

スタッフから以下のような意見が出るかもしれません。

- a 行事をこなすということに関して言えば、満足のいく結果だった。
- b 設定したねらいとキャンプの内容はズレてはいないか。
- c 果たして子どもたちの一生の思い出に残ったのか。
- d 企画を立てる際に、ねらいを忘れていなかったか。
- e 「やったことがないから」「いつもやっているから」という主催者の都合で、プログラムを決めたのではないか。

【参加者や保護者の方の感想や意見を聞く】

スタッフの多くが上記の a ~ e の意見のように感じている人がいれば、それを検証するには、参加者やその保護者の方の感想や意見を聞いてみるとよいでしょう。

感想から下記のような意見が出たとします。

○参加者=子ども

- ・野外炊事はカレー作りをしたかった。
- ・キャンプファイヤーは楽しかったけれど、やったことのない活動をしたかった。
- ・ちょうど流星群が見られる夜だったので、スターウォッチングをしたかった。



○保護者

- ・子どもは楽しかったと言っているが、印象に残ったことはと聞くと答えられない。
- ・キャンプで何をしたいのか、子どもたちに事前に聞いてほしかった。

この声からは、子どもたちが望んでいたキャンプとはなっていなかったことになりまます。また保護者の方の文章からは、スタッフのねらいである「一生の思い出に残る」行事にならなかったとも考えられます。このようにふりかえりには、子どもたちの率直な考えや保護者のニーズを知ることができます。

ふりかえりの結果によって、自分たちがやりたいこととねらいとのバランスを考えることができます。「活動のマンネリ化」「参加者の減少」「スタッフのモチベーション低下」という悪循環に陥らないようにふりかえりの結果を活かしましょう。そうすることで子どもたちや地域の人たちにとって、更により活動になるはずですよ。

ふりかえり用紙の工夫



- ・子どもは「楽しかった」「おもしろかった」という感想を書いてくれることが多いのですが、ねらいを達成できたかどうかわかりません。こちらのねらいが達成できたかどうかを評価してもらうためのふりかえり用紙の工夫が必要です。
- ・年齢によって、変えてみるとよいでしょう。例えば小学校低学年では文章があまり書けないので絵日記風にするとういでしょう。
- ・反省会やふりかえりの中で出た意見やふりかえり用紙（資料集 P.90 ~ 93 参照）、アンケート結果などは議事録や集計結果をまとめ、グループの資料として保管しておくことをオススメします。
- ・役員が世代交代した時にも、書面としても残しておくこと必ず役に立つし、同じ間違いを繰り返さないですみます。

(4) 活動評価

一つひとつの行事についての活動評価は(2)(3)の方法で実施するとよいでしょう。それでは皆さんの普段の活動全般について、ふりかえるためには、どうすればよいでしょう。グループの外側に立って、以下の観点から客観的にグループを見つめてみましょう。

活動評価の観点

- ・ 会員の人数は適正か
- ・ 会員同士の間関係はうまくいっているか
- ・ どんな内容の活動をどのくらいやっているのか
- ・ 日常の活動やイベントでは、問題はないか
- ・ 話し合いの雰囲気はうまくいっているのか
- ・ 行事のふりかえりは活かされているか



上記の観点で見て、自分たちの活動に対する理想とどうちがっているのかを評価します。具体的には以下のようなことが思い浮かぶでしょう。

例えば、

- ・ メンバー全員にきちんと連絡がいきわたるように、年度の初めに連絡網や連絡掲示板を作ったのにきちんと機能していない。
- ・ 月2回の定例会を開いているのだけれど、その時に意見を出すのは先輩たちばかりで、後輩たちはただ聞いて従うだけになってしまっている。
- ・ 活動に対して家族や学校、地域の人たちの理解がなかなか得られない。
- ・ 本来の自分たちがやりたい活動と、地域の人たちからお願いをされてお手伝いをさせてもらっている内容にズレがある。

現在の皆さんの状況によって大きいものから小さいものまで様々な「理想に対して満足できていない現状の問題点」、「この点が直ったらグループやグループの活動がもっとよいものになるという事柄」に気がつけたのではないのでしょうか？

原因を探る

問題点が発見できたら今度はその原因を考えてみましょう。

- ・ 「なんでそういう風になってしまったのか？」「何が良くないから現状があるのか？」という一つひとつの問題点に対しての理由を整理してみます。
- ・ 理由を整理することが難しい場合には、話し合いの場などでグループのメンバーに自分が考えている問題点を投げかけてみるのもいいでしょう。

もしかしたら他のメンバーも同じような悩みを抱えていたかもしれませんし、話を聞いてハッと気づいて「どうにかしなきゃ！」と考えるメンバーも出てくるかもしれません。

対策を練る⇒改善に向けて

ここまでの作業ができたらいよいよ「じゃあどうしたらいいの？」について考えて見ましょう。出てきた問題点とその原因によっては自分1人で対策を考えて改善できることかもしれませんし、グループのメンバーと話し合いを持つことによって解決のアイデアが生まれるかもしれません。また、すぐに改善できるものもあるでしょうし、時間をかけて徐々に解決していかなければならない問題もあることでしょう。

活動評価ができれば、次にまた実践

グループの活動はこういった事を発見し解決をしていく繰り返しです。時に大変な問題を解決しなければならなかったりすることもあるでしょう。しかし、グループで互いに協力をしあい、時には地域の人や外部の人などの助けを借りながら試行錯誤を繰り返していく必要があります。大切なことは立ち止まったり、後戻りしないことです。失敗したら次の活動に活かしていくことです。

グループのメンバーがお互いの目標や理想を理解しあい尊重しあった中で共通の認識を持ち、あなたや周りのメンバーにとってのベストな環境・ベストな活動を目指して続けていってください。

活動評価は、車で言えば定期点検！



- ・グループで活動していると、マンネリ化してきたり、何のためにやっているのかがわからなくなることがあります。そんなときに「活動評価」が必要です。定期的にメンバーで実施するとよいでしょう。言わば車の「定期点検」と同じです。「人間ドック」とも言えるかも。
- ・車の点検後は、安心して走れるように、グループ活動も安心してできますね。



2. グループを育てる

グループについての問題点、いろいろと考えてみよう！

(1) 新しい仲間探し

人数が少ないと？

人が少ないと一人ひとりがやることは逆に多くなります。でも話し合いはまとめやすいし、少ない人数でもできるように企画を工夫する力がつくかもしれません。

人の少ないグループの形

発想を変えて、今の人数でも活動できるように工夫する方法もあります。

例えば、中心になって動くメンバーの他に、〇〇や××だったら手伝えるというサポートメンバーを集めるのです。サポートメンバーは毎回同じ人にこだわらず、都合の良い人に手を上げてもらいます。

その中から毎回参加してくれるような人ができたら、メインのメンバーになってくれる日も近いかもしれません。

新メンバーを集めていこう

人数が多ければ、分担して作業できるし、得意・不得意を生かすこともできます。

新しい年下のメンバーが入れば、活動を引き継いでくれる後輩を育てられます。後輩を育てることは自分自身の成長にも役立ちますし、新しいメンバーは今までの活動を知らない分、どんどん新しい意見を出し、活動のマンネリ化を防ぐことができます。

積極的に新しい仲間を探し、参加させていきたいところです。

<グループ>にこだわる必要はない

こんなことがやりたいと気がついた人が手を上げて、一緒にやってみたい人を集める。何かあるごとに新しいメンバーが集まり、終わると解散する、と考えるとわかりやすいでしょうか。一緒に考え、体験することでつながりが作られていくこともあるのです。

そして体験で学んだことや、行事のノウハウを受け継いでいく。そういったゆるやかなつながりで続いていく集団があってもいいのではないのでしょうか。

たとえば

Iの「佐歩太君の盆踊り大会」(P.10)ですが、この活動は佐歩太君が中心になって進めました。

佐歩太君は『子どもたち』の「盆踊り大会がもっと楽しければいいのに」という思いから、楽しくするためにどうしたらいいのか『友人たち』と話し合い、『子どもたち』とも協力しながら振り付けを考え、そして興味を持った町内会の大人に自分たちの考え



を説明しました。

佐歩太君はみんなのやりたいことを聞いて、それを具体的な形にまとめたわけです。

佐歩太君は、「こういうことがやりたいんだけど、やってみたい人集まれ！」という号令役、まとめ役をやって、実際に盆踊り大会を成功させました。

日頃から話をしよう

人の集め方についてはⅡでふれているので、ここでは改めて書きません。

ただ、新しい仲間を探すとき、どういった場合でも大切なのは、自分たちの活動内容について、日ごろから色々な人に話して、理解してもらっておくことです。知らない相手にいきなり話を持ちかけても、「何それ？というかあなた誰？」で終わってしまいます。

どんな人に来て欲しいのか

自分たちの活動に賛同してくれる人を探しましょう。以前自分たちの活動を手伝ってくれた人や、イベントの参加者などに、今度はこんなことをするんだけど、と声をかけてみてください。

そして新しくグループに入りたいと希望してくれる人がいたら、自分たちがどういった考えで活動をしているのかを、しっかりと伝えて歓迎しましょう。

(2) 信頼関係づくり

人が出てきてくれない

メンバーは沢山いるのに、その中の決まった人しか活動していません。なかつたり、新しいメンバーを加えても、少しすると参加してくれなくなってしまうことはないでしょうか。

その人たちは何故参加してくれなくなってしまうのでしょうか。

どうして出てきてくれないのか

新しいメンバーは、例えば転校生のようなもの。参加してみたけど、何をしたらいいのかわからず、誰も話しかけてくれずにボツンとしている…。これでは次につながりません。そしてそれは、以前から参加しているメンバーでも同じなのです。

活動の大切さをまじめに考える人もいるでしょうが、活動に参加したい人は、たいてい「楽しそうだから」参加したいと思ってくるはずですよ。

その気持ちをつぶしてしまわないように、こちらから積極的に声をかけ、「参加して楽しい」と思える雰囲気作りを大切にしていきましょう。

参加したい気持ちはあっても…

出てこない人を無理に引っ張り出そうとしたり、ましてや「どうして来ないの？」と責めたりするのはやめましょう。(普通に聞いたつもりでも、本人はすごく気にするかもしれませんよ?)

人にはそれぞれの都合が、時間的な制約があります。その中で活動に関わっているのですから、どうしても参加できない時というのはあるのです。長期間顔を出さない人がいても、やる気が無いのではなく、何か理由があるのかもしれない。



もう一度参加できる雰囲気

逆に言うと、まだまだ活動をやりたいと思っても、何かの理由で一時離れてしまうと、また活動を再開するのは何となく気後れしてしまって難しいものです。

休んだ後での復帰も歓迎できるような雰囲気を作っておきましょう。

そしてまた、本人から参加したいという声があがったら、心から歓迎しましょう。

活動している実感＝活動の楽しみ

グループで何か行うときは、一人ひとりが役割を持つことが大切です。

一方的に教えてもらって指示待ちで活動しているだけでは、自分で活動しているという実感は薄くなってしまいます。自分の意思と意見を持って活動できるようにしていくことで、活動の楽しさや意義を見出すことができるのです。

日頃から、雰囲気づくりに心がけよう！

自分で出した企画を実施できることはとても楽しいことです。

企画の段階からも、新旧たくさんのメンバーが気軽にアイデアを出し合えるような雰囲気を、日頃から作っていきましょう。



それも先輩の役目

先輩メンバーからすると、新しいメンバーに役割を任せることは、心配かもしれません。しかし、失敗も経験の一つと割り切って、任せたらあれこれと口出しはせず、見守っていきましょう。

もちろん向こうから聞いてきたときは、どんどん応えるのも先輩の役割です。

他にも色々工夫できる

活動内容についてもメンバーに定期的に知らせて、できるときにできる活動に参加してもらるように工夫してみましょう。

たまにはメンバー全員に呼びかけて交流会をしてみるのも良いことです。お互いあまり知らなかったもの同士が気軽に話し合える場所を用意することで、メンバー間の理解が深まれば、お互い気軽に意見を出し合えるようになります。

(3) 話し合いについて ⇒ Iの5. P.17 参照

うまく話せているか？

「自分たちの組織ではあまり新しい意見がでてこなくて、活動がマンネリ化している。それに活動の仕方について、うまく後輩に引



き継いでいないみたい。」

これはつまり、うまく話し合いができていない、ということになります。

良くない話し合いって？

「はじめから結論が決まっている（特定の人の意見が押し通ってしまう）」とか、「みんな黙ってしまって沈黙だけ」とか、そういったものが上げられますが、こういった形になっていないでしょうか。

皆さんも良い話し合い、いやな話し合いについて考えてみてください。

皆さんは、どんな話し合いをしていますか？

特にこんなことが大切

話し合いのときに必要なのは、色々な意見の言い合える、話しやすい打ち解けた雰囲気です。

特に新しく入ってきたばかりのメンバーや、年下のメンバーからすると、先輩の前で話すのはとても緊張します。意見があっても、黙ってしまうこともあるでしょう。

まずは最初に、その緊張をほぐすことから始めてみてください。

話しやすいように工夫しよう

Iにあるように、開始前に簡単なゲームをするのも良いし、お菓子や飲み物を用意して、気楽なおしゃべりのように会場を作るのも方法の一つです。

会場は、集まりやすく皆が使い慣れている場所が良いでしょう。学校の教室のような形に机を並べるのは、何か報告したいときには向くかもしれませんが、話し合いでは堅苦しい雰囲気になりますのでやめましょう。

なかなか意見を言えない人のために

緊張していたり、人と違う意見だから言い出しにくかったりと、意見があっても言い出せずに飲み込んでしまう人もいます。

そんな人のために、話し合いの内容を参加者に知らせておいて、あらかじめ意見を書いてきてもらうという方法もあります。

紙に書いておけば、みんなで見ながら考えることができます。

紙に書いておく(記録をとる)ことが大事！

- ・ノートに記録しておくことは大切です。記憶があいまいになることはよくあります。そんなときに確認することができます。
- ・引継ぎのときなども有効です。単純にも見えますが、基本的なことは文書にしておくことで、伝えそこなうことを防ぐことができます。



何より大切なのは人間関係

話し合いのときには、先輩メンバーは他の人から意見をうまく引き出せるように心がけてみてください。でも無理やり意見を言わせることは避けましょう。

日ごろから他のメンバーたちとよく話して、信頼できる、話しやすい先輩であるように心がけてください。信頼できる、仲の良い相手になれば、気軽に色々な意見を出すことができるのです。

これは全てのメンバーに当てはまることです。

良い人間関係があってこそ、良い話し合いができると考えてください。

「ダメ」は言ってはダメな言葉

最後に、話し合いで絶対してはいけないことがあります。それは「意見の否定」です。せっかく出てきた意見に対して、「それはダメだ」と言ってしまったら、次からもう意見どころか、話し合いの場にも出てこなくなってしまうかもしれません。

無理と思われる意見が出てきても、本当に無理なのか、そしてなぜ無理なのかを話しあってください。

そして新しい意見が出てきたら、失敗してもよいくらいの気持ちでどんどん挑戦してみましょう。

(4) スキルアップ

もっと上を目指してみたい

精一杯活動しているのに、毎年同じようなことをしている、どうしたらもっと良いものになるのか悩んでいることはないでしょうか。

v

自分たちでできること、考えられることを全て出し尽くしてしまい、新しいことをやろうにももう引き出しが無いという状態です。



「ねらい」は達成できているか

同じテーマで同じ内容の行事を繰り返すことは、恒例行事として地域でも定着するので、悪いことではありません。

重要なのはⅢの 1.(1) (P.51) にも書いてあるとおり、「ねらいの達成」ができていますか。

その上でより良いものにする工夫や、新しい行事について考えたいのにアイデアが出てこないのならば、外から学び取っていきましょう。

どこから学べる？

こういった技術や工夫の方法は、色々なところから学ぶことができます。

たとえば

自分たちの活動に関係するような本を読む

- ・図書館や青少年センターなどの青少年施設で探してみましょう。

地域の青少年関連団体の活動に参加する

- ・新しい地域のニーズが見つかるかもしれません。積極的に参加してみましょう。

色々な研修会に参加する

- ・青少年センターなどの青少年施設や、役所などでチラシを配布しています。

ボランティア交流会に参加する

- ・他の団体がどんな活動をしているのか、参考になることが多いはずです。

インターネット利用

インターネットを使って、他の団体について情報を集めてみるのもよいでしょう。その際はネチケット（ネット上の礼儀、エチケット）を守りましょう。



研修会・たくさんのが学べる

研修会は、色々なテーマで開催されています。ねらいを絞って学べるので、「これが足りない！これを知りたい！」という部分を積極的に学ぶことができます。

それ以外にも、色々な研修会に参加することで、今まで知らなかった活動や工夫の仕方や、もしかしたら新しい仲間を見つけることができるかもしれません。

研修会はどこでやっている？ ⇒ 資料集 P.98 参照

例えば、青少年施設や役所、身近な青少年関連の組織でやっていることがあります。

それと、この本にはそういった研修を行っている組織について、簡単な一覧が載っていますので、場所や内容について、参考にしてみてください。

独り占めにしないで、仲間と共有しよう！

誰かが研修に参加して終わりではなく、グループの中で勉強会を開くなどして、どんどん広めていきましょう。グループ全体のレベルアップにつなげていくことが大切です。



交流会に参加してみる

研修会以外に、ボランティア交流会というイベントもあります。色々な活動をしているグループが集まって、お互いの活動について話し合うのです。

自分たちと同じような活動をしているグループはもちろん、違う活動をしているグループからも色々和得られるはずです。交流会の情報については、研修会と同じく青少年施設や役所（P.101参照）、身近な青少年団体に聞いてみてください。

交流会を開催してみる

自分たちで交流会を開催してみるのも一つの方法です。知っているグループと直接交流するのも良いですし、あちこちに宣伝して大きく開催してみるのも良いでしょう。

その際は使える方法を全部使って、知らないグループにも情報が届くように考えてみてください。役所等に頼んでみると、市や県をまたいで宣伝できるかもしれませんよ。

日常的にレベルアップ そして出会い



こういった学習へは、組織の問題に関係なく、普段から行ってみることをお勧めします。いろいろな場に出て、多くの人や活動と出会い、積極的に自分と組織全体をレベルアップさせていきましょう。



3. 地域で場所を確保する

実際に活動していて困ったことはなんでしょう。会場が確保できなかつたり、Iの佐歩太君のように、大人の人に話を聞いてもらえなかつたりすることはないでしょうか。その辺りを考えてみましょう。

(1) 自分たちの活動報告

活動を知ってもらうこと

会場を借りたり、地域で活動しようとする時、行事の中身や皆さんのグループについて聞いてくる人がいると思います。

人に話を聞いてもらうこと、そして認められることは自分たちの活動のエネルギーになりますし、話を聞いてくれた人は、次から活動を支えてくれる大人のサポーターになってくれるかもしれません。



大人も巻き込んでしまおう

大人は皆さんにはない力を持っています。皆さんの知らない知識や技術を持っている人もいます。色々な協力を得ることで、今まで以上に活動をスムーズに進めることができるかもしれません。

地域に積極的にPRし、皆さんに協力してくれる大人を見つけてみましょう。

PR (広報活動) で大切なこと

まずはPRについて考えてみましょう。

PRでは、「何がしたいのか、何のために活動しているのか」という活動の目的を分かりやすく説明することです。そして、その目的のために、実際にどんな活動をしているのか、活動を通してどんなことが得られたかを分かりやすく伝えましょう。

これははっきりさせておくことで、自分たちの目的をいつでも再確認することができるというメリットもあります。

PR (広報活動) の方法として

例えば、チラシや通信を作って配ります。読んでほしい相手に1部ずつ渡せると効果的ですが、配る枚数分の紙代や、印刷に費用がかかります。

活動が活発なグループはあれもこれも載せたくらいと思いますが、読む人のことや費用も考えて、なるべく簡単に、1枚くらいにまとめるといいでしょう。(資料集 P.87 参照)

壁新聞を作って、役所や町内会、学校の掲示板に貼ることもできますし、町内会の人々が協力してくれているなら、町内の回覧板に載せてもらえないか話してみましょう。



かなり大掛かりなものになりますが、地域の人たちを招いての**活動報告会**を開催することで、多くの人に直接聞いてもらうことができます。

また**インターネット**（グループの**ホームページ**や**ブログ**）という方法もあります。インターネットを使えば、遠く離れた人にもPRできます。それだけでなく、掲示板などの活用で、メンバー同士や他の地域のグループとの情報交換にも役立つでしょう。

ただ、インターネットを使わない人もいますので、他の手段も使って情報が伝わるように注意しましょう。

では、協力してくれる地域の大人にはどんな人がいるのでしょうか。

誰かに読んで(チェックして)もらいましょう！



できあがった原稿は、活動に関係ない人に一度読んでもらいましょう。自分たちでは分かるように書いたとしても、他の人からみるとわかりにくかったりするものです。

(2) 協力してくれる人

一番身近な協力者＝親・家族

皆さんに一番身近な大人は誰でしょう。

それは皆さんの家族です。まず自分の家族に理解してもらおうところから始めてみましょう。そして他のメンバーや参加者についても、家族の理解は必要です。

このハンドブックを読んでいる皆さんのほとんどは未成年だと思います。保護者に反対されてしまうと、これからの活動は難しくなってしまうます。

たとえば

ナイトウォークなどの夜間行事や宿泊の行事では、保護者の同意がないのに参加してもらうことはできませんし、メンバー同士の日常の話し合いなどでも、帰りが遅いと心配します。もう参加させない！という話になるかもしれません。



理解してもらおう、行動で信じてもらおう

自分たちはどういったグループで、どういった活動をしているかを説明して、活動で帰りが遅くなるときは連絡を入れるなり、心配をかけないように考えてみてください。

また、可能ならば保護者の皆さんにも活動をどんどん手伝ってもらってください。皆さんがどんな活動をしているのか、どういった人がメンバーなのかを実際を知ることで、安心して送り出すことができるでしょう。

(3) 協力してくれる人⇒学校の先生

学校にも話をしてみよう

最近では、多くの学校が、学校の外での活動をどんどん応援していこうという考え方をするようになってきました。

担任の先生や、部活動の顧問の先生、ボランティアに興味を持っている先生方に話をし、実際に活動に協力してもらおうのも良いでしょう。

また、学校内で何か活動できないか考えてみてください。他の人に活動を広める良い機会になります。

「学校外活動の単位認定」を知っていますか？



単位制の県立高校では、「学校外活動の単位認定」という制度を持っているところがあります。

学校外でのボランティアやスポーツ・芸術活動などが、卒業単位にカウントされるというものです。もし単位制の学校に通っている人がいたら、ぜひ先生に相談してみてください。

学校のここが便利です

学校の先生が協力してくれると、とても心強いです。学校から情報をもらえたり、地域に情報を発信したいときにも協力してもらえたり、空き教室や体育館などを、何かの会場として使わせてもらえるかもしれません。学校には色々な施設や道具があります。必要なとき借りられたら、無駄にお金を使わずにすみます。

また学校の後押しがある行事や活動は、保護者から理解を得られやすくなるでしょう。

母校の先生に世話になっちゃえば！



母校の小学校の先生には、ぜひとも協力者になってもらいましょう。活動のお知らせやイベントの募集などに協力してもらえらるかもしれませんし、小学校の行事予定や年間計画について教えてもらうこともできます。

(4) 協力してくれる人⇒地域の団体

いろいろあります、地域の団体

地域には、子ども・若者に関わるものだけでもいろいろな団体があります。こうした団体に協力してもらえれば、情報収集や活動のサポートをしてもらえる可能性があります。直接子ども・若者に関わっていない団体でも、みなさんと協力してもらえる団体もあります。また近くの大学や専門学校も、地域と関わる活動を考えているところもあります。

特に若い人たちの活動には、どこも応援したいと考えています。必要だと考えたら、いろいろな団体に協力を呼びかけてみましょう。

地域の団体と協力していこう

地域の団体は、その地域で活動の実績があります。活動のためにはどういった準備をし、また必要なものや人材がどこにあるかなどをよく知っています。

町内会館（自治会館）などを借りるため、地域団体の人に声を掛けることもあるでしょう。お互いに協力できる関係ならば、その地域の活動をよりスムーズにすることができま

す。また、地域団体の人たちはお互いに交流していることが多いので、知り合いのいる団体があれば、そこを通して他の団体からも協力が得られるかもしれません。

たとえば

子ども・若者と関わっている団体

「子ども会」「ジュニアリーダーズクラブ」「青少年指導員連絡協議会」「学童保育」「ボーイスカウト」「ガールスカウト」「おやじの会」「冒険遊び場のグループ」「育児サークル（母親クラブ等）」「JC（青年会議所）」

子ども・若者と間接的に関わっている団体

「社会福祉協議会（社協）」「商工会や商店連盟など」「環境や福祉、まちづくりなどのNPO」「体育振興会・体育協会」「体育指導委員連絡協議会」

※NPO：非営利（お金もうけでない）での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。

連絡方法や時間に注意！

NPOやボランティア団体の場合、連絡の窓口（事務局）は個人の自宅の場合もあります。そういう場合は、早朝や深夜を避け、迷惑のかからない時間帯を選んで連絡しましょう。



「ねらい」について話し合おう

その地域でどんな活動が望まれているのか話し合うには、地域の人たちが一番です。

自分たちの活動のねらいと、地域のニーズを考えて、よりよい結果が出るように活動していきましょう。自分たちだけで活動するより、地域の人たちとお互いに協力し合って、一つのことをやり遂げることはとても良い体験になることでしょう。

地域の子どもたちと大人たちの架け橋を作り、その始めの一步を皆さんの手で作ってみませんか。



(5) 協力してくれる人⇒行政や人材バンク

他にもいる、協力者

皆さんにはあまり身近ではないかもしれませんが、行政（市町村、県、国などの公共の施設）も地域の団体の一つです。

行政では施設、人材、行事などについての情報を持っていることが多いです。

詳しくはⅡの4(2) (P.41) に書いてありますので、そちらを見てください。

以上のように、地域には様々な団体や組織があります。積極的に話し合い、協力し合うことによって、今皆さんが抱えている問題の解決法が見つかることでしょう。

皆さんの活動をより活発にしていくため、自分たちの活動を広め、協力できる組織を増やしていくことを勧めます。



1. ネットワークを作る

人との出会いを大切にすることで、ネットワークが広がります。お互いのメリットを探りながら、関わっていきましょう。

(1) 他の団体と活動してみる

ネットワーク作りのメリット

他の団体と活動することは、自分たちの活動を見つめなおすためにも活動をよりよくするためにもとても効果のあることです。Ⅱの4(P.40)やⅢの3(P.67)を見ると分かるように、地域にはみなさんの活動目的や内容と同じような方向性や考え方をを持った組織や団体が数多く存在します。

他団体とコミュニケーションを図ることによって、活動の幅や視野が広がり団体相互の良い刺激となり、メンバーの活動意欲の向上やスキルアップにつなげることができます。

そして情報交換もしやすくなるでしょう。



(2) 情報交換

他団体と情報交換をすることは、お互いの団体にとってとても良いメリットがあります。

同じ地域の組織との情報交換

同じ地域の団体との情報交換は、地域の事をよりよく知ることができたり、同じ地域でのパイプができたりします。そして地域での活動をよりスムーズにするためのきっかけとなります。地域のより多くの人に自分たちの活動を知ってもらい、PRしてもらえます。新たな活動の機会を手に入れられる絶好のチャンスともなります。

他地域の組織との情報交換

他地域の同じような活動目的や内容の団体（ジュニアリーダーズクラブ同士など）と情報交換することによって、自分たちの知らなかった知識や技術を吸収することができます。また団体で抱えている活動の悩みや問題点を話し合うことで、自分たちだけでは解決できなかった問題の解決の糸口がつかめたり、同じような考え方をを持った仲間が他地域にもいることが分かり活動意欲の向上につなげたりすることができます。

お互いに訪問・見学をしてみよう！



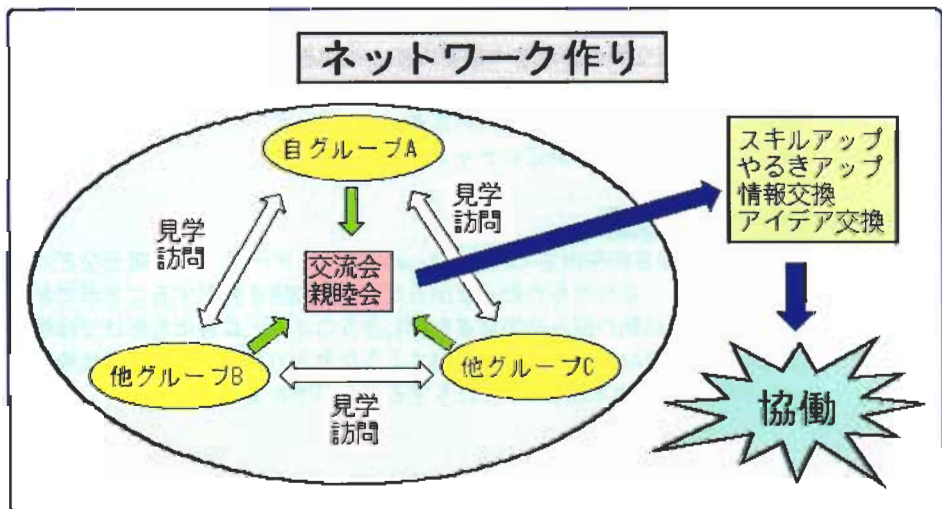
- ・地域の様々な施設や他団体の活動の様子などを訪問し、見学することは活動の幅を広げる意味でも効果のあることです。
- ・訪問や見学をすることによって、新たな活動の展開方法やアイデアなどが発見できるコトもあります。
- ・他団体の活動を見学させてもらうだけでなく、他団体に自分たちの活動を見てもらい、率直な感想を聞くことで、自分たちの活動に役立てることができます。

(3) 交流（ネットワーク作り）

交流会を開いてみよう

お互いに訪問・見学をした後に、他団体と交流会や親睦会を開くとよいでしょう。これも活動のいい刺激になるはずです。普段は別々の活動をしている人々と話し合い共に企画をして交流会や親睦会などのお楽しみ会を催すことにより、お互いのスキルアップや活動意欲の向上にとってもいい効果があるでしょう。

そのような会の中で活動の悩みや問題点などを雑談を交えリラックスしながら話し合うことも、普段一緒に活動しているメンバーとは異なる人に相談できるため客観的にアドバイスしてもらえることも多く、活動を振り返り今後につなげる非常にいい機会になると思います。



(4) ネットワークの活用

『ネットワーク⇒協働』の可能性

他団体との交流や情報交換などによってできたネットワークをうまく活用すると、その後の活動に大きな可能性を見出すことができます。お互いの団体同士の交流のみで終わってしまうのではなく、例えば交流会の場で出たアイデアをきっかけに、お互いの団体が協力し合い他団体にもサポートしてもらい、今までできなかったような大規模な活動や大勢の人を巻き込んだ活動もできるようになるかもしれません。このような大規模な活動は、地域のより多くの人々のために貢献することができますし、また多くの人たちに自分たちの活動を知ってもらえるきっかけにもなるので、団体にとっても地域にとっても大きなメリットになるはずです。

よりよい地域社会づくりのために

テレビや雑誌などのメディアで、「有名デザイナー〇〇〇とファッションブランド△△△の夢のコラボレーション」とか「ミュージシャン◆◆◆と☆☆☆のコラボ」というものを目にした事はないでしょうか？

この「コラボ/コラボレーション」という言葉が「協働」と同じような意味合いです。つまりいくつかの団体などが目的を共有し共に力を合わせて活動をするということです。

いま日本で、誰もが暮らしやすい明るい地域を作るために、様々な団体や多くの人たちが活動をしています。そこでは、活動のジャンルやスタイルのちがいを越えて、さまざまな団体・グループが協力しあうことが重要だといわれています。

ネットワークを活かし、他団体や組織のお互いの足りない部分を補いあい協力し合うことで地域の抱えた大きな課題も解決できる可能性があります。ぜひ積極的に他団体や組織などとのコミュニケーションを図り、活動に協力してもらい時に協力しながら活動を続けていってほしいと思います。みなさんの活動が活性化することは、みなさんの住む地域が活性化することです。

Iの3.(5)(P.12)で述べたように、みなさんの活動が元気になればなるほど、**住みやすいまちづくり**に貢献していることになります。みなさんの暮らしているまちが、少しでも住みやすくなれば**子ども・若者の未来を明るく**することができるでしょう。





実際に活動していくために、
必要な文書例などをそろえました。
どうやって書いていいのか、
わからないときに
使ってください。ウッキー！



- 子どもサポーターが取り
組める活動テーマ
.....P.74
- 活動やイベントを企画す
るときの8つのポイント
(6W2H)P.82
- 活動に役に立つ文書
(フォーマット)集P.83
- 子どもサポーターに
役立つ研修情報P.98
- 子どもサポーターに
役立つ書籍P.100
- 青少年担当課一覧表
.....P.101

子どもサポーターが取り組める活動テーマ

Iの2.(1)(P.6)で述べているように、活動テーマは何でもいいのです。自分たちで考えたオリジナルのものでも、今まである伝統行事などでもいいのです。そのやり方として、「地域活動」「子どもが主役」「大人を巻き込む」の要素が入っていることが大切であると述べました。

そこでこの活動分野の項では、上記を頭に入れながら、どんな活動がいいのかを考えるためのヒントとして、参考にさせていただきたいと思います。

1. 体験活動

自分たちのオリジナルな企画として実施可能なものを紹介します。

(1) 「2. 地域活動」(P.78) と組み合わせ、実施できる可能性のあるもの

【調理・炊事体験】

- ・うどんづくり
- ・そばうち
- ・そうめん流し
- ・カレーづくり
- ・豚汁づくり
- ・バターづくり
- ・ヨーグルトづくり
- ・バームクーヘンづくり
- ・もちつき
- ・炊き出し

【イベント系】

- ・フリーマーケット
- ・花火大会
- ・収穫祭
- ・すいか割り大会
- ・バーベキュー大会
- ・肝だめし大会
- ・バザー
- ・雪祭り（雪合戦、「かまくら」づくり）

(2) 野外・スポーツ活動

危険を伴うものもあるので、安全管理には十分な体制づくりが必要です。インストラクターなどの指導を仰ぐ必要があります。

【野外活動・アウトドアスポーツ】

- ・ハイキング
- ・登山
- ・キャンプ
- ・デイキャンプ
- ・ウォークラリー
- ・ナイトウォークラリー
- ・フォトラリー
- ・町探検ラリー
- ・シュノーケリング
- ・カヌー
- ・カヤック
- ・乗馬
- ・サイクリング
- ・パラグライダー
- ・ポディーラフティング（※1）
- ・チュービング（※2）
- ・アウトドアクッキング

※1 ライフジャケット・ウエットスーツを着用して、体一つで川を流される体験

※2 ※1にさらにタイヤのチューブを使って、川を流される体験

【スポーツ活動】

試合の後には、バーベキューやゲーム大会など知恵を絞った催しを行い、交流をさらに深めるとよいでしょう。

○ニュースポーツ系

- | | | |
|------------|-------------|---------------|
| ・ ティーボール | ・ ペタンク | ・ インディアカ |
| ・ ドッチビー | ・ パークゴルフ | ・ ターゲットバードゴルフ |
| ・ グラウンドゴルフ | ・ キックベースボール | ・ ユニホック |
| ・ 雪合戦 | ・ カバディ | ・ ソフトバレーボール |
| ・ ディスクゴルフ | ・ スポーツチャンバラ | |

○スポーツ系

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| ・ ドッジボール | ・ ソフトボール | ・ 野球 |
| ・ 卓球 | ・ バドミントン | ・ ボウリング大会 |
| ・ スキー教室 | ・ スケート教室 | |

※ルール等についてはインターネット上に出ているものがほとんどです。またここに掲載されていない種目もたくさんあります。同じ種目名さえ使わなければ、多少ルール等を変えて実施しても問題ありません。

(3) 環境学習・自然体験・科学体験

【環境学習】

「気づき⇒関心⇒理解⇒行動」という一連の流れを体験学習するものであり、行動したあとに再び気づきがあります。そしてまた次のステップへ移るサイクルで環境学習します。自分たちで工夫して出来るものもありますが、指導者がいないと取り組めないものもあります。

- ・ 身近な環境調査（水質、大気、騒音、振動、光害：夜の明るさによるもの）
- ・ 調べ学習（貿易問題、南北問題、食糧の自給率、食品添加物等）
- ・ 地域環境調査
 - ・ 身近な生き物調べ
 - ・ 河川浄化
- ・ 海浜清掃
 - ・ 森林づくり（植林、下草刈り、間伐）
- ・ 里山保全活動
 - ・ 野生生物保護活動
 - ・ ビオトープづくり（※1）
- ・ 石けんづくり（家庭の廃油を利用したりサイクル活動）
- ・ 牛乳パックによる紙すき（ハガキづくり等）
- ・ プロジェクトワイルド体験（※2）
- ・ プロジェクトウェット体験（※2）
- ・ プロジェクトラーニングツリー体験（※2）

※1 ビオトープとは、「本来の生態系が保たれた空間」という意味で、「生態系を考慮して作られた学校の庭、沼地」、「自然の生態系を大切に自分の庭」、「立木が残された畑」などがあげられる。

※ 2 プロジェクトワイルド、プロジェクト WET、プロジェクトラーニングツリーはアメリカで開発された体験学習による環境教育プログラムです。

【自然体験】

ありのままの自然を体験し、自然を理解する活動です。自分たちで工夫して出来るものもありますが、指導者がいないと取り組めないものもあります。

- ・自然観察
- ・星空観察
- ・薪割り
- ・ビーチコーミング(※4)
- ・ネイチャーゲーム
- ・自然素材によるクラフト
- (リースづくり、ドングリクラフト、流木クラフト、バードカービング等)
- ・磯(潮だまり)の観察
- ・森林づくり(※1)
- ・源流探検
- ・いかだづくり
- ・バードウォッチング
- ・ネイチャーフォトラリー(※2)
- ・リポートレッキング(※3)
- ・ボディーラフティング(※5)

※ 1 植林、下草刈り、枝打ち、間伐、除伐など

※ 2 ラリーコース場にある自然素材を設間に取り入れます。知識ではなく、五感で自然を体験できるようなものにします。

※ 3 溪流沿いや沢などでのんびりと楽しむ川歩きのこと、溪流沿いの緩やかな道や河原、沢の中の動植物を観察しながら歩くことができます。

※ 4 浜辺に落ちている漂着物を拾い集める遊びのこと。拾った素材がどこから流されてきたのかを調べたり、それを素材にクラフトをしてもよいでしょう。

※ 5 ライフジャケット・ウエットスーツを着用して、体一つで川を流される体験

【地域によっては可能な体験活動】

調理・炊事体験と組み合わせることができます。

- ・いも掘り
- ・みかん狩り
- ・潮干狩り
- ・地引き綱
- ・米づくり(田植え、草刈り、稲刈り、脱穀)

【科学体験活動】

- ・スライムづくり
- ・石けんづくり
- ・牛乳パックからはがきづくり
- ・ロボット工作
- ・星空観察
- ・その他いろいろな科学の実験

※ 詳細について、県立青少年センター科学部(045-263-4470～71)にお問い合わせください。

(4) 文化・芸術活動

文化の伝承や趣味を広げる活動となりますが、これらの活動を通して人間関係づくりや地域活性化にもつながります。またコンテスト、ライブ、発表会などのイベントととして実施することも可能です。

【文化活動】

- ・和太鼓
- ・映画鑑賞会
- ・紙芝居
- ・朗読会
- ・人形浄瑠璃
- ・三味線

【演劇活動】

- ・演劇
- ・ミュージカル
- ・人形劇
- ・演劇ワークショップ

【音楽活動】

- ・和太鼓
- ・ロックコンサート
- ・地元交響楽団による演奏会
- ・中高生のプラスバンドによる合同発表会
- ・ストリートミュージシャン大会

【ダンス】

- ・ヒップポップダンス
- ・社交ダンス
- ・フラダンス
- ・キッズダンス
- ・レクダンス
- ・盆踊り
- ・民族舞踊

【創作体験】

- ・凧づくり
- ・独楽づくり
- ・遊び道具づくり
- ・紙飛行機づくり
- ・竹細工（コップ、お皿、はし、スプーン）
- ・わらじづくり
- ・クリスマスリースづくり
- ・しめ縄づくり
- ・はがきづくり（牛乳パックからはがきをつくる）
- ・料理教室
- ・カヌーづくり
- ・壁面コンクール（※）
- ・ツリーハウスづくり

※ガード下のコンクリート壁を利用して壁画を描いたり、地域の商店街のシャッターの壁画を描くもの。ただし勝手に描くと落書きになってしまい、犯罪とみなされることもあります。行政や商店会と協働で実施する形がよいでしょう。

(5) 伝承遊び・昔遊び

地域によって異なりますが、親の世代以上の人たちが子どもの頃普通にやっていた遊びが忘れられ、遊び文化が失われつつあります。外へ出ても遊び方を知らない、複数の友だちが集まってもテレビゲーム等をしている子どもたちに楽しい遊びを体験させてあげましょう。やがて子どもたちに定着して、自分たちで遊ぶようになるかも知れません。

- ・どろけい
- ・鬼ごっこ（各種）
- ・かくれんぼ

- ・風車づくり
- ・縄跳び（ゴム跳び）
- ・福笑い
- ・竹とんぼづくり
- ・カルタ
- ・折り紙
- ・あやとり
- ・双六

※ NPO 法人東京少年少女センターのホームページの「仲間遊び図鑑」に上記についてルール等が掲載されているものがあります。また他にもたくさん掲載されています。

<http://www.children.ne.jp/play/>

2. 地域活動

(1) 伝統行事

地域に根付いている行事であれば、何でもいいでしょう。ただし地域の大人の壁は厚く、若者が望むことをすぐにやらせてもらえないかも知れません。熱意を持ってまず実績をあげて、認めてもらいましょう。

- ・例大祭
- ・納涼祭・盆踊り大会
- ・みこし祭り（本みこし、子どもみこし）
- ・どんど焼き

(2) 地域行事

その地域の住民が集まって行う行事であり、(1)伝統行事と重なっているものもあります。

- ・運動会
- ・公民館まつり
- ・芋煮会
- ・マラソン大会
- ・文化祭
- ・宝探しウォークラリー
- ・清掃活動
- ・お花見会

(3) 子ども会行事

子ども会行事への協力から始まって、やがて子どもたちと一緒に企画を考えるようになればしめたものです。

- ・新入生歓迎会
- ・クリスマス会
- ・肝だめし
- ・ゲーム大会
- ・卒業生を送る会
- ・子どもキャンプ
- ・夕涼み会

3. ボランティア活動

(1) 地域貢献

町内会（自治会）等では、いろいろなことをやっています。しかしそのような行事には若者の姿が少ないようです。まずはどんな行事があるのかを知り、子どもや若者ができることをやってみましょう。

- ・街路樹の手入れ
- ・道路・公園の清掃
- ・通学路のフラワーポットづくり

- ・子どもの見守り（通学路のパトロール）
- ・地域行事ボランティア
- ・児童館のボランティア（日常的に子どもと遊ぶあるいはイベントの手伝い）
- ・放課後児童クラブのボランティア（日常的に子どもと遊ぶ等）
- ・公民館のボランティア（イベントの手伝い等）
- ・発掘ボランティア（化石、遺跡等の発掘体験）

(2) 福祉

「福祉ボランティア」と大上段に構えないで、身近にできることをやってみましょう。まずは地域にどんな施設があるかを調べ、連絡して可能性を探ってみましょう。

- ・施設訪問（リハビリテーションセンター等で、リハビリトレーニングの介助・協力等、福祉施設を訪問し歌・ゲーム等をする活動）
- ・妊婦・高齢者・身体障害者の疑似体験
- ・老人会との交流会（ゲートボール大会などの協力や参加）

(3) 国際理解

地域に住んでいる外国人がどれくらいいるか知っていますか。まずは身近な外国人と交流することで、海外の生活や文化を理解してみましょう。

- ・子どものころ遊んだゲームや母国語の歌などの交歓
- ・民族料理を作り、食べる体験・ティーサロン（多国籍の人々とお茶会）
- ・交歓ホームステイ（お互いの家庭で生活体験）
- ・国際交流フェスティバルの開催

(4) 異世代交流

子どもや若者は、意外と大人や老人と接していません。特に祖父母と一緒に暮らしていない家庭はその生活と触れる機会が少なくなっています。まずは楽しいことから始めてみましょう。例えば異世代交流イベントとして、幼児から老人までを対象にイベントを開いてみてはどうでしょうか。

- ・ゲートボール大会
- ・パークゴルフ大会
- ・ボウリング大会
- ・囲碁、将棋大会
- ・オセロ大会
- ・編み物教室
- ・地域密着型アートイベント（イベントにボランティアスタッフとして体験参加し、さまざまな年齢・職種の地域の大人や、その道のプロと関わって、いろいろなことをその仕事から学ぶ）

(5) 施設ボランティア

子ども対象の施設で日常的に子どもと遊んだり、イベントの手伝い等をします。

- ・児童館
- ・放課後児童クラブ
- ・フリースクール
- ・フリースペース
- ・養護施設
- ・日本語教室(外国籍の子どもに日本語をボランティアで教える)

(6) 環境保全活動

環境保全をしなければならないと「気づき」「理解」しても行動しないと意味がありません。そこで地域の身近な自然環境や生活環境で、出来ることから始めましょう。楽しいことも組み合わせると実施するとよいでしょう。

- ・河川の水質調査&河川クリーンアップ作戦
- ・自然観察&クリーンハイキング
- ・ビーチコーミング&海岸クリーンアップ作戦
- ・自然観察&森林ボランティア

4. その他

(1) 遊び場づくり

子どもの遊ぶ環境が失われているところが多く、子どもたちが安心して遊べる遊び場づくりが望まれています。まずは公園や児童館と一緒に遊ぶことから始めましょう。子どもたちと人間関係ができてきたら、大人を巻き込んで子どもの望む遊び場づくりを、子どもと一緒に取り組んでみましょう。

- ・冒険遊び場(プレーパーク)づくり
- ・地域に遊び場をつくる活動
- ・秘密基地づくり
- ・ツリーハウスづくり
- ・公園づくりワークショップ

(2) 食育

子どもの安全や健康が心配されています。まず食えることが基本です。日常的でどんなものを食べているのかを知ることから始め、安全な食べ物とはどんなものか調べ、それを食べる体験をしましょう。

以下の活動と料理教室やアウトドアクッキング体験を組み合わせるとよいでしょう。

- ・農業体験
- ・林業体験
- ・水産業体験
- ・川遊び・釣り体験
- ・食材選び
- ・地域、郷土料理学習

(3) 職業体験

働くことを体験します。まずはどんな職業があるのかを調べ、実際に体験できるものを選び、やってみましょう。

- ・農業体験
- ・林業体験
- ・水産業体験
- ・洋上体験
- ・商売体験
- ・フリーマーケット
- ・子ども祭りの屋台体験
- ・一日職業体験
- ・地場産業体験

選び、やってみましょう。

- ・ 農業体験
- ・ 林業体験
- ・ 水産業体験
- ・ 洋上体験
- ・ 商売体験
- ・ フリーマーケット
- ・ 子ども祭りの屋台体験
- ・ 一日職業体験
- ・ 地場産業体験

(4) 情報発信

自分たちの地域に起きたことやイベントを調べ、情報発信してみましょう。もちろん自分たちが興味を持っているものなら何でもいいでしょう。地域の回覧板や自分たちで立ち上げたホームページ、ブログなどを利用しましょう。

- ・ ミニコミ紙発行
- ・ 地域情報発信
- ・ ケーブルテレビ局のイベント

(5) 地域の人材活用

地域に住む人たちにはいろいろな特技やおもしろい人がたくさんいます。そのような人たちを発掘して、教えてもらったり、一緒にやってみましょう。

- ・ 染め物
- ・ 伝統工芸
- ・ 陶芸
- ・ 人形づくり
- ・ 茶道・華道
- ・ 舞踊
- ・ 囲碁・将棋
- ・ タップダンス
- ・ フラダンス

(6) 地域間交流

ここまでにあげてきたすべての活動で、他地域で同様な活動をしている人たちと一緒にやってみましょう。井の中の蛙にならずに、いろいろな人たちと交流しましょう。

例えば、ドッジボール、ソフトボール、野球大会の後には、バーベキューやゲーム大会などを催し、交流を更に深めましょう。



活動やイベントを企画するときの8つのポイント (6W2H)

8つのポイント(6W2H)		項目	確認すること・注意点	検討すること	その他
1	何を (WHAT)	活動内容	・メンバー全員からアイデアを募る ・決定を急がない。	・予算・人員・会場などを考え、可能性を探る。	・最初からできないとあきらめないで、フレキシブルなミーティング(※)を使って、たくさんのアイデアを出す。
			・日程 ・プログラム内容	・集合から解散までの流れ ・魅力があるか ・みんなが楽しめるか ・目的に合っているか	・時間的な無理はないか ※特定のテーマについて、先入観にとらわれず、自由にアイデアを出し合う方法 ・内容がわかる名称
2	誰が (WHO)	イベントの名称	・わかりやすい名称	・目を引くキャッチコピー	・実行委員会を開く ・係別打ち合わせを実施
			スタッフは	・誰が参画できるのか ・どんな係分担が必要か	・実行委員を決める ・係と担当者を決める
3	いつ (WHEN)	季節は	・気候・気温		・梅雨や台風の時期
		日時は 集合・解散時間は 参加申込みは	・他の行事との重複はないか ・冬季は日没時間に注意 ・申込先・方法		・昼食はどうするか ・受付開始日、しめきり日
4	どこで (WHERE)	会場の選択	・屋内か屋外か ・集合・解散に便利か ・広さは十分か	・雨天プログラム ・雨天時の集合場所 ・募集人員と実施内容	・雨天対策は綿密に ・距離・経路の確認
			・危険箇所の確認 ・使用料の有無 ・使用手続き	・集合経路も確認 ・使用料の確認 ・申込み方法	・会場の下見は十分に ・直前の下見も必要 ・支払い方法も確認
5	何のために (WHY)	イベントの目的	・目的を明確にする	・なにを伝えたいか ・ゴール(目標)設定	・期待される効果を考える
6	誰と誰に (WHOM)	参加者は	・対象者を誰にするか ・会員制の場合 ・一般公募の場合	・募集方法 ・ビジターの取扱い ・募集の範囲 ・定員の扱い	・イベント内容・目的との関係 ・年齢・地域など ・最初から抽選にしておくのか ・定員オーバーと会場、スタッフの関係 ・費用は必要か
		広報先は	・どこへ広報するか	・広報の手段・方法	
7	どのように (HOW)	準備は	・事前準備は何かあるか	・準備係を決める	
		準備計画は	・いつ頃から準備するか	・準備計画を作る	
		準備物品は	・団体の備品・所有品 ・購入する物 ・借用する物	・準備担当 ・購入品リスト、購入担当 ・借用の手配、借用担当	・会計担当との相談 ・借用の交渉
		講師・指導者は	・自分たちだけでできるか	・講師・指導者の手配	・日程・謝礼等の交渉
8	いくら (HOW MUCH)	リスクマネジメント	・組織上の準備 ・物品の準備 ・傷害保険の加入	・緊急時の体制づくり ・救急法などの習得 ・救急箱の準備 ・保険金額	・連絡体制など ・応急処置の方法
		予算は(収入)	・参加費の収入は ・団体の事業費は ・外部からの助成金は ・おやつ・昼食代は	・1人あたりの参加費 ・団体からの持ち出しは ・助成金申請 ・要・不要の検討	・キャンセルの想定
		予算は(支出)	・記念品・景品など ・会場使用料・講師謝礼など ・傷害保険料 ・物品購入、事務経費など	・イベントの趣旨によって	・減免になる場合もある

活動に役に立つ文書（フォーマット）集

ここからは、実際に活動する際に必要な企画書等の文書の例を掲載しました。

企画書(例) **20XX年度「子どもサポート事業」応募企画書**

20XX年〇〇月××日

「子どもサポート」基金
代表 〇〇〇〇 様

住 所 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

活動グループ名 Team “Child Support”

代表者名 古戸母 佐歩太 印

次のとおり申し込みます。

記

活動テーマ「みんなでフェスティバル」

助成希望金額 100,000 円(消費税含む)

企画書

資料集

1.グループのデータ

(1)グループ名	Team “Child Support”						
(2)代表者 氏名	古戸母 佐歩太(中学1年生)						
	TEL	090-〇〇〇〇-XXXX	FAX	045-〇〇〇-XXXX			
	E-mail	s-kodomo@dokomo.ne.jp					
(3)グループの構成	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人	その他	計
	人数	10	8		2		20

(4)グループの目標

子どもも大人もみんな笑顔であいさつできるようなまちづくり

(5)活動実績

- ・1年前から地域の児童館で週末に子どもと遊ぶ活動を続けている。
- ・児童館の行事にボランティアとして協力している。
- ・隔月で児童館併設の児童遊園を使って、子どもと遊ぶ集いを開催している。

2.活動の目的・ねらい(何のために活動するか)

- ・たくさんの子どもが一緒に遊べる場づくりをしたい。
- ・子どもも大人もみんなが集える場づくりをしたい。
- ・子どもも大人も笑顔があふれるまちにしたい。
- ・子どもが安心して遊べるまちにしたい。
- ・子ども・若者が意見を言えるまちにしたい。
- ・子ども・若者が何を考えているのかを大人に理解してもらいたい。

企画書（例）の続き

<p>3.活動内容(6W2Hを具体的に記す)</p> <p>(1)何を(What) 住民参加のお祭り(屋台、子どもも大人も遊べるアトラクション、フリーマーケット等)</p> <p>(2)誰が(Who) グループのメンバー+地域住民(希望者)</p> <p>(3)いつ(When) 8月26日(日)。夏休みを使って準備をし、前日の土曜日に会場準備をして、日曜日に実施する。</p> <p>(4)どこで(Where) 〇〇児童館併設の児童遊園</p> <p>(5)何のために(Why) ・地域住民が集える場づくり ・子どもたちの体験学習 ・児童館の遊具の寄付費用捻出</p> <p>(6)誰と・誰に(Whom) 地域住民(誰でもok)</p> <p>(7)どのように(How) ・小中学生が中心になって、企画・運営する。 ・児童館及び町内会に会場借用・広報等について協力依頼する。 ・地域住民(子どもから大人まで)のボランティアを募り、グループと協働でイベントを運営する。 ・町内会の回覧板及びポスター掲示(広報掲示板)により、協力者及びフリーマーケット参加者を募集する。 ・フリーマーケットの売上の50%及び屋台等の売上を児童館に寄付して、遊具購入費に充ててもらう。</p> <p>(8)いくらで(How much) 助成金(10万円)+会費(19,000円)+フリーマーケット参加費(3千円×10)+売上(3万円)=179,000円</p>
<p>4.活動スケジュール</p> <p>3月・・・児童館との打ち合わせ 4月・・・企画会議 5月・・・詳細内容決定、町内会との打ち合わせ 6月・・・役割分担決定、協力者募集 7月・・・広報(イベント案内、フリーマーケット参加者募集) 8月前半・・・準備(必要物品製作・調達、フリーマーケット調整会議) 8月後半・・・8月26日(日)実施</p>
<p>5.活動費(具体的な使い途)</p> <p>・物品レンタル費・・・95,000円 ・消耗品費・・・10,000円 ・食品仕入れ費・・・30,000円 ・ゴミ処理費・・・24,000円(できるだけゴミが出ないように工夫をする) ・物品運搬費・・・20,000円</p>
<p>6.期待される成果(どんな効果があるのか)</p> <p>・地域住民が集える場を提供できる。 ・子どもと大人の協働作業ができ、お互いが理解しあい人間関係が生まれる。 ・子どもが自分たちで企画・運営することで、イベントの体験学習ができ自信につながる。 ・児童館の運営に協力することができる。</p>

開催要領

タイトル「みんなでフェスティバル」

1.目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が集える場づくり ・子どもたちの体験学習 ・児童館の遊具の寄付費用捻出
2.主 催	Team “Child Support”
3.期 日	2007年8月26日(日)
4.会 場	〇〇児童館併設の児童遊園
5.対 象	地域住民ならどなたでも
6.定 員	特になし
7.参 加 費	一般参加者は特になし。フリーマーケットの出店者は3,000円。
8.広 報 手 段	町内会の回覧板及びポスター掲示(広報掲示板)により、協力者及びフリーマーケット参加者を募集する。
9.フリーマーケット 出店申込	TEL 090-〇〇〇〇-XXXX, FAX 045-〇〇〇-XXXX E-mail s-kodomo@dokomo.ne.jp
10.問い合わせ	TEL 090-〇〇〇〇-XXXX
11.内 容	住民参加のお祭り 屋台、子どもも大人も遊べるアトラクション、フリーマーケット

資料集



夏休み最後の日曜日、楽しいことありますよ～。
子どもから大人まで、誰でも参加OK。
みんなで来て、楽しんでっつねえ～！！！！！！

フリーマーケット

家で眠っていたお宝・最新アイテム発見！売りに出てるよ！安いよ、安いよ！



屋台(模擬店)

焼きそば、焼き鳥、かき氷。ビールもあるよ(もちろん大人だけ)

フリーマーケット



アトラクション

定番の金魚すくい、ヨーヨーすくい。あとは秘密、子どもたちが考えたオリジナルなアトラクション、そして最後はビンゴ大会ーだあ！！



問い合わせ先：090××××××××××

Team "Child Support" 代表：古戸母 佐歩太まで

グループPR用紙

グループの紹介用に利用することができます。

1.グループのデータ							
(1)グループ名	Team "Child Support"						
(2)代表者 氏名	古戸 母 佐歩太(中学1年生)						
	TEL	090-0000-XXXX	FAX	045-242-XXXX			
	E-mail	s-kodomo@dokomo.ne.jp					
(3)グループの構成	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人	その他	計
	人数	10	8		2		20
2.グループの目標							
子ども大人もみんな笑顔であいさつできるようなまちづくり							
3.活動の目的・ねらい(何のために活動するか)							
<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの子どもと一緒に遊べる場づくりをしたい。 ・子ども大人もみんなが集える場づくりをしたい。 ・子ども大人も笑顔があふれるまちにしたい。 ・子どもが安心して遊べるまちにしたい。 ・子ども・若者が意見を言えるまちにしたい。 ・子ども・若者が何を考えているのかを大人に理解してもらいたい。 							
4.活動内容(6W2Hを具体的に記す)							
(1)何を(What)							
住民参加のお祭り(屋台、子ども大人も遊べるアトラクション、フリーマーケット等)							
(2)誰が(Who)							
グループのメンバー+地域住民(希望者)							
(3)いつ(When)							
8月後半の日曜日。夏休みを使って準備をし、前日の土曜日に会場準備をして、日曜日に実施する。							
(4)どこで(Where)							
〇〇児童館併設の児童遊園							
(5)何のために(Why)							
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が集える場づくり ・子どもたちの体験学習 ・児童館の遊具の寄付費用捻出 							
(6)誰と・誰に(Whom)							
地域住民(誰でもok)							
(7)どのように(How)							
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生が中心になって、企画・運営する。 ・児童館及び町内会に会場借用・広報等について協力依頼する。 ・地域住民(子どもから大人まで)のボランティアを募り、グループと協働でイベントを運営する。 ・町内会の回覧板及びポスター掲示(広報掲示板)により、協力者及びフリーマーケット参加者を募集する。 ・フリーマーケットの売上の50%及び屋台等の売上を児童館に寄付して、遊具購入費に充ててもらおう。 							
(8)いくらで(How much)							
助成金(10万円)+会費(19,000円)+フリーマーケット参加費(3千円×10)+売上(3万円)=179,000円							
5.活動実績							
<ul style="list-style-type: none"> ・1年前から地域の児童館で第2,4土曜日の午後に子どもと遊ぶ活動を続けている。 ・児童館の行事にボランティアとして協力している。 ・隔月で児童館併設の児童遊園を使って、子どもと遊ぶ集いを開催している。 							

「みんなでフェスティバル」収支予算書

		項 目	金 額	積 算 の 内 訳
収 入		助成金	¥100,000	「子どもサポート」基金
		会費	¥19,000	小学生(500円)×10人 中学生(1,000円)×8人 社会人(3,000円)×2人
		フリーマーケット参加費	¥30,000	出店者(3,000円)×10人
		収益	¥30,000	フリーマーケット、模擬店の売上
		合 計	¥179,000	

		項 目	金 額	積 算 の 内 訳
支 出		食材等仕入れ費	¥30,000	屋台の食材の仕入れ用
		消耗品費	¥10,000	ブルーシート、ガムテープ等
		物品レンタル費	¥95,000	テント、かき氷・たこ焼き器借用代
		物品運搬費	¥20,000	トラック等借用代
		ゴミ処理費	¥24,000	回収業者処理費用
		合 計	¥179,000	

「みんなでフェスティバル」収支決算書

	項 目	金 額	積 算 の 内 訳
収 入	助成金	¥100,000	「子どもサポート」基金
	会費	¥19,000	小学生(500円)×10人 中学生(1,000円)×8人 社会人(3,000円)×2人
	フリーマーケット参加費	¥30,000	出店者(3,000円)×10人
	収益	¥45,000	フリーマーケット、模擬店の売上
	合 計	¥194,000	

	項 目	金 額	積 算 の 内 訳
支 出	食材等仕入れ費	¥35,000	屋台の食材の仕入れ用
	消耗品費	¥9,500	ブルーシート、ガムテープ等
	物品レンタル費	¥90,000	テント、かき氷・たこ焼き器借用代
	物品運搬費	¥20,000	トラック等借用代
	ゴミ処理費	¥24,500	回収業者処理費用
	寄付	¥15,000	児童館へ
	合 計	¥194,000	

資料集

ふりかえり用紙（小学校低学年用）の例

「活動タイトル」 年 月 日

すてきな思い出

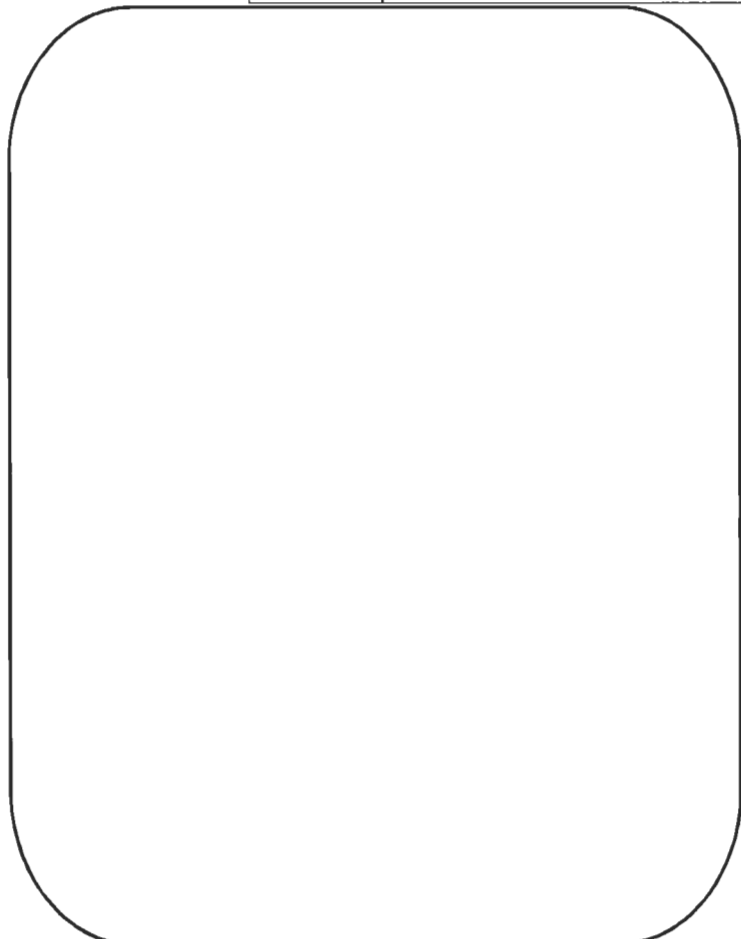
学年は？	小学校	年	なまえ	
------	-----	---	-----	--

なまえは書いても書かなくてもどちらでもいいです

きょう、いちばんたのしかったことをえにかいてみましょう

私の遊び絵日記

タイトル



なにをしているところかなあ？ 下に書いてみましょう。

--

ふりかえり用紙（小学校高学年以上用）の例

「活動タイトル」 _____ 年 月 日

参加者ふりかえり用紙

学年は？	小学校	中学校	年	なまえ	
------	-----	-----	---	-----	--

なまえは書いても書かなくてもどちらでもいいです

1 今回体験したことで、それぞれあてはまる番号を○でかこんでください。

活動内容	①とてもよかった	②よかった	③あまりよくなかった	④よくなかった
(1) どうしてですか？	①	②	③	④
(2) どうしてですか？	①	②	③	④
(3) どうしてですか？	①	②	③	④
(4) どうしてですか？	①	②	③	④
(5) どうしてですか？	①	②	③	④

2 感想(全体を通して何か、気がついたこと・感じたことを書いてください)

3 スタッフ(おにいさん・おねえさん)に一言、書いてください。

4 次回参加するとしたら、どんなことをやってみたいですか？

「活動タイトル」 _____ 年 _____ 月 _____ 日

_____ 評価用紙（保護者用）

学年は？ 小学校 中学校 年	児童氏名
----------------	------

氏名は書いても書かなくてもどちらでも結構です

1 今回の行事から帰ってきて、お子さんについて何かお気づきになった点がございますか？

2 今回の行事から帰ってきて、お子さんはどんな話をしていましたか？

3 次の行事に参加させようと思いますか？

はい いいえ

←○で囲みその理由を下にお書きください。

4 今後私たちが活動していく上で、どんなことを望みますか？

資料集

ふりかえり用紙 (スタッフ用)

第 回	年 月 日	氏 名	() 担当	
活動を終えて、以下の事項について活動をふりかえってみましょう。 ○で囲み、よかった点・こうすればよいという改善点があれば記入してください。				
1	形態(日帰り、宿泊)	適当	適当でない(改善点:)	
2	内容に対する時間配分	適当	適当でない(改善点:)	
3	時期	適当	適当でない(改善点:)	
4	会場	適当	適当でない(改善点:)	
5	定員	適当	適当でない(改善点:)	
全体のテーマ				
6	よかった	どんな点?:		
	よくなかった	改善点:		
それぞれの活動について、ふりかえってみましょう。 ○で囲み、どんな点が書きましょう。				
7	(1)	よかった	よくなかった	どんな点が
	担当者について、気がついた点を書きましょう			
	(2)	よかった	よくなかった	どんな点が
	担当者について、気がついた点を書きましょう			
	(3)	よかった	よくなかった	どんな点が
	担当者について、気がついた点を書きましょう			
	(4)	よかった	よくなかった	どんな点が
	担当者について、気がついた点を書きましょう			
	(5)	よかった	よくなかった	どんな点が
	担当者について、気がついた点を書きましょう			
8	その他、次回の活動に生かせることを記入してください。			
	()			

以下に、主に野外活動において必要な文書類を掲載しました。

下見チェックリスト（例）

チェック項目	十分	改善	要検討	備考
危険な場所等				
危険な動植物はいないか				
荒天時に危険な場所はないか				
崖崩れや落石の危険はないか				
折れて倒れそうな木や竹はないか				
竹の切り株やとがった木や枝がないか				
行為の安全性				
火を安全に使用できるか				
参加者が安全に集合できるスペースがあるか				
荒天時の避難場所はあるか				
トイレは確保できるか				
飲料水は確保できるか				
退路は確保できるか				
外部との連絡				
緊急時の連絡体制はあるか				
当日診療している医療機関はあるか				
地主や役所から使用許可を得られるか				
火は使用可能か				
駐車場は確保できるか				

事故発生時の対応マニュアル（例）

事故発生

現場のスタッフがすべきこと

現場スタッフ・事故に居合わせたスタッフ

応急措置

- ・**応急手当**
- a 周囲の状況の観察
- b 傷病者の観察
- c 具体的な手当
- d 経過の記録・メモ
- ・**必要な物**
- 救急用品
(ファーストエイドキット)
- 搬送用具(担架・毛布等)
- ・**あると良い物**
- 救急法の資格等

本部へ連絡

- ・**事故についての報告**
- a 対応者(現場のスタッフ)は誰か
- b 事故者は誰か
- c 場所はどこか
- d 時刻
- e 何があったか
- f 「〇〇〇」をして欲しい
- 例
 - ・救護係を要請
 - ・支援の要請
 - ・搬送・輸送の支援
 - ・アドバイス等

緊急要請

- ・**必要ならば**
- 救急(119番)
- ・**交通事故**
- 救急(119番)
- 警察(110番)
- ・**緊急でない場合**
- 本部スタッフ等で医療機関に搬送し、プログラム進行に影響を与えないようにする。

本部・事務局スタッフがすべきこと

本部スタッフ・事務局スタッフ

現場へ行く人

- ・**現場への支援**
- a 人的支援(人)
- b 物的支援(物)
- c 知的支援(アドバイス)
- ・**準備が必要**
- 救護係、救急用品、搬送用具、緊急対応できる人員

本部に残る人

事故者以外への対応

- ・**関係機関**
- a 搬送先へ(病院・医療機関)
- b 警察・消防等へ
- c 保険関連
- ・**家庭や保護者**
- a 事故についての報告
- b 搬送先等の報告
- c 処置、治療の報告
- d 保険、医療費について
- ・**プログラム、イベントについて**
- プログラム、イベントについて変更や続行、中止について判断する。

記録・報告

- ・**報告書**
- 現場の記録等を参考に事故の報告書を作る。
- 再発の防止に努める。

健康調査票（例）

記入日 年 月 日

(ふりがな)									
参加者氏名									
住所									
電話番号									
緊急連絡先									
ふりがな									
保護者氏名									
住所									
身長	cm	体重	kg	血液型	型Rh	平温体温	度	乗り物酔いの有無	有・無
持病・既往症 など									
最近一年間に かかった主な病 気									
薬・食物などの 副作用・アレル ギー									
健康・生活面で 注意すべきこと									

※この健康調査票は、〇〇〇ボランティア活動の参加者が、無事活動を終えることができるよう本人およびスタッフが留意すべき点を調査するものです。他の目的には一切使用しません。

(団体名等を記入)

事故報告書（例）

いつ	2006年 8月 20日 15時 35分
誰が(事故者)	氏名 銚子 もの太郎 年齢 10 歳 性別 男
どこで	テント場
何をして	鬼ごっこ
どのように	テント場周辺で鬼ごっこ中にテントのロープに足をかけて、前方に倒れた。
どうなったか	倒れた際に右腕を地面につき、肘を脱臼した。
誰が(対応者)	氏名 古戸母 佐歩太 年齢 13 歳 性別 男
どのような対応をしたか	一緒に鬼ごっこをしていた参加者から、連絡があり駆けつけると、地面に仰向けになって肘を押さえていた。事故の状況を本人と一緒に遊んでいた参加者に聞いた。その話から骨折または脱臼と判断して、右肘(患部)を固定し、大人のスタッフの車で病院に連れて行った。脱臼と診断されたので、キャンプ続行は不可能と判断し、保護者に連絡し迎えに来てもらい、家に帰した。
どこの医療機関へ	日曜日であったので、一番近い救急病院へ運んだ。
どんな処置をしたか	事故現場では、三角巾を使用し右肘を固定して、車に乗せた。
どんな結果であったか	病院で脱臼とわかり、適切な処置をもらった。
その他	大人のスタッフがいたので、助かった。
事故はなぜ起きたのか	ペグやロープがテントの周りにあり、走ったりすると危険であることを注意していた。しかし自由(休憩)時間で気がゆるんだのか、自然発生的に鬼ごっこを始めてしまった。
再発防止にはどうしたらよいか	参加者全員を集め、テント場周辺での行動について、細心の注意を払うように徹底する。またテントの点検をさせることで、危険であるという認識を喚起する。
対応策は	今回は事故後の対応が適切であったので、大事故には至らなかった。今後も危険予知、安全管理を徹底し、事故後の対応マニュアルを作成し適切な対応ができるようにする。

子どもサポーターに役立つ研修情報

分類	主催団体等		所在地	電話番号
	開催地・施設名称等			F A X
国の機関・全国組織等	(独) 国立青少年教育振興機構			03-3467-7201
	国立オリンピック記念 青少年総合センター 国立青少年交流の家/ 国立青少年自然の家	ボランティア養成研修 ユースリーダー塾ほか	東京都渋谷区代々木神園町3番1号	掲載なし
	(社) 青少年交友協会	自然体験学習指導者養成講座ほか	東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明305	03-5391-1901 03-5391-1902
	(社) 全国子ども会連合会	危険予知トレーニング(KYT)講習会 子ども会実技指導者養成講習会ほか	東京都文京区大塚6-1-14 全国子ども会ビル	03-5319-1741(夜) 03-5319-1744
	(財) 児童育成協会	ボランティア講習会	東京都渋谷区神宮前5-53-1	03-3797-5666
	子どもの城		03-3797-5676	
神奈川県内の関連機関等	各市区町村の青少年担当課	ジュニアリーダー研修 シニアリーダー研修	P.101参照	
	神奈川県立青少年センター青少年支援部	子どもに関わる若者 ボランティアセミナー	横浜市西区紅葉ヶ丘9-1	045-263-4466
	同上	子どもを支援する若者セミナーほか		045-242-8190
	神奈川県立青少年センター科学部	青少年科学体験指導者セミナー ロボット工作・競技会 指導者セミナー	同上	045-263-4470 045-263-4471
	同上			045-241-7088
	神奈川県立清川青少年の家	キャンプ指導者研修、 人間関係づくりセミナーほか	愛甲郡清川村煤ヶ谷2274	046-288-2319 046-288-2117
	同上			
	(社) 神奈川県青少年協会	ボランティア受け入れ事業ほか	横浜市港北区藤原台町6-16	045-402-0346 045-402-0362
	県内各地			
	(財) 神奈川県ふれあい教育振興協会	ふれあい指導者研修会	横浜市神奈川区神之木台22-14	045-430-3790 045-430-3791
	県立足柄・愛川ふれあいの村			
	(財) 横浜市スポーツ振興事業団	野外活動指導者養成講座	横浜市中区尾上町6-81 ニッセイ横浜尾上町ビル内	045-640-0011(夜) 045-640-0021(夜)
	市内各地			
	(財) 横浜市青少年育成協会	ボランティア入門講座 スキルアップ講習会	横浜市中区吉町4-42-1 横浜市青少年育成センター内	045-662-3716 045-664-6254
	横浜市野島青少年研修センターほか			
	(社) 横浜市レクリエーション協会	スポーツ・レクリエーション 人材養成講座	横浜市中区尾上町6-81 ニッセイ横浜尾上町ビル2F	045-671-5050 045-671-5041
	市内各地			
(財) 藤沢市青少年協会	リーダー研修(小学生5,6年、中学生、高校生、リーダーズスクール)	藤沢市朝日町10-8 藤沢青少年会館内	0466-25-5215 0466-28-9567	
市内の青少年会館、少年の森など				
(財) 横浜YMCA	キャンプ指導者養成研修ほか	三浦市初声町和田3136	046-888-2100 046-888-2152	
県立三浦ふれあいの村				
(財) 日本レクリエーション協会	レクリエーションインストラクター 養成講習会等	東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6階	03-3265-1241 03-3265-1245	
県支部ごとに開催				
(社) 日本キャンプ協会	キャンフィンストラクター講習会等	東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内	03-3469-0217 03-3469-0504	
県支部ごとに開催				
(社) 日本ネイチャーゲーム協会	ネイチャーゲームリーダー養成講座	東京都新宿区新宿1-20-13 花園公園ビル1F	03-5363-6010 03-5363-6013	
県支部ごとに開催				

資料集

分類	主催団体等	研修等の内容または名称等	所在地	電話番号
	開催地・施設名称等			FAX
実施している研修を専門的に行っている団体	(株) プロジェクトアドベンチャージャパン 神奈川、山梨ほか各地で開催	プロジェクトアドベンチャー ジャパン各種ワークショップ	東京都渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンビル6F	03-3406-8804 03-5467-7018
	(財) 公園緑地管理財団 全国各地で開催	プロジェクトワイルド エド育ーター養成講習会	東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル11階	03-3431-4865 03-3436-4587
	(財) 河川環境管理財団 全国各地で開催	プロジェクトウェット エド育ーター講習会	東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル2F	掲載なし 03-5847-8309
	ジャハンGEMSセンター 全国各地で開催	GEMSリーダー養成 ワークショップなど	東京都新宿区新宿5-10-15 ツインズ新宿ビル4F	03-3350-6770 03-3350-7818
	(財) 日本アウトワード・バンド協会 日本アウトワード・バンド協会長野校ほか	リスクマネジメント講習会 野外(自然)体験教育指導者 養成コースなど	東京都新宿区白銀町2-12 シルヴァーヒル301	03-3235-5757 03-3267-6023
	NPO法人自然体験活動推進協議会(CONE) 全国各地で開催	CONE(ノン)リーダー養成講座	東京都新宿区新宿5-7-8-6F	03-5363-2501 03-5363-2502
	(財) キープ協会 山梨県	自然体験、環境保全など に関する研修	山梨県北杜市高根町清里3545	0551-48-2114 0551-48-3575
	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 (RAC) 全国各地で開催	川の初級指導者養成講座 (RACリーダー)	東京都中央区新川2-10-6 カヤマビル703号	03-5542-7577 03-5542-7578
	自然体験.COM(自然体験ドットコム)	全国各地の自然体験イベント情報	インターネットの検索サイトから検索可能です。	
	自然体験イベント情報	イベント・講習会・交流会などの情報		
	環境省	子ども向けイベント情報など	東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎5号館	03-3581-3351代

※開催日程や詳しい内容については、主催団体に直接問い合わせてください。

※高額な参加費を必要とする研修や、受講後に資格登録などが必要なものもありますので、各団体のホームページ等で確認してください。

※高校生以上、18才以上など参加資格に制限がある研修もあります。



子どもサポーターに役立つ書籍

分野	書籍名	著者・編者	出版社・発売元
ゲーム・ソング等	みんなのPA系ゲーム243	緒澄 敬之	杏林書院
	みんなで楽しい！ レクリエーションゲーム	(財)日本レクリエーション協会	西東社
	楽しい！もりあがる！ レクリエーション・ゲーム集107	(財)日本レクリエーション協会	ナツメ社
	レクリエーションゲーム集	(財)日本レクリエーション協会	高橋書店
	みんなの レクリエーションゲーム	(財)日本レクリエーション協会	池田書店
	たのしい！ レクリエーションゲーム集	(財)日本レクリエーション協会	西東社
	懐かしい歌・思い出の歌	全国福祉 レクリエーション・ネットワーク	成美堂出版
	野外ゲームの達人	京都市教育委員会花背山の 家、京都市小学校・中学校野 外教育研究会	北大路書房
楽しい野外ゲーム75	今井 弘雄	黎明書房	
野外活動	ゼロから始めるウォークラリー (増40号)	(財)日本レクリエーション協会	(財)日本レクリエーション協会
	ウォークラリーの手引き	(財)神奈川県ふれあい 教育振興協会	(財)神奈川県ふれあい 教育振興協会
	キャンプファイヤーの手引き	(財)神奈川県ふれあい 教育振興協会	(財)神奈川県ふれあい 教育振興協会
	はじめての野外料理		地球丸
	はじめてのダッチオープン料理		地球丸
	野外料理のレシピ集235		地球丸
	野外料理入門	みなくち なほこ	山と溪谷社
	野外料理超簡単レシピ555	鈴木 アキラ	山と溪谷社
	キャンプ&野外生活 ワンダーランド	神谷 明宏・柴田 俊明	いかだ社
	自然とあそぼう 3 あそんでたのしむ野外活動入門	山岡 寛人	ポプラ社
自然とあそぼう 1 つくってたのしむ野外活動入門	山岡 寛人	ポプラ社	
アウトドア・ローテクニック	羽根田 治	山と溪谷社	
安全管理等	野外のエマージェンシー・ブック	大蔵 喜福	地球丸
	ニュー・アウトドア 救急ハンドブック	小浜 啓次	小学館
	とっさのときの救急法	平田 忠	ブックマン社
	救急法のすべて 理論と実技	小森 栄一	技術書院
	すぐに役立つ救急法 増補	手嶋 昇・野口 盛雄	不昧堂出版
	こうしてすすめよう！ 子ども会KYT	(社)全国子ども会連合会	(社)全国子ども会連合会
	みつけたキケンくん	(社)全国子ども会連合会	(社)全国子ども会連合会
	冒険と安全のための チェックポイント	(社)全国子ども会連合会	(社)全国子ども会連合会
その他	子ども会 Step Up for Junior Leader's	(社)全国子ども会連合会	(社)全国子ども会連合会
	子ども会 Step Up for 集団指導者	(社)全国子ども会連合会	(社)全国子ども会連合会
	プロジェクトアドベンチャー入門 グループの力を生かす	プロジェクトアドベンチャー ジャパン	C.S.L.学習評価研究所
	新・グループワークトレーニング		遊戯社
	協力すれば何かが変わる 一統・学校グループワーク ・トレーニング	横浜市学校GWT研究会	遊戯社
体験学習の手引き	神奈川県立青年の家	神奈川県立青年の家	

直接協会または
ふれあいの村へ

ホームページより購入可

非売品
青少年センター
で閲覧可

青少年担当課一覧表

地域	課名	電話番号	地域	課名	電話番号	
横浜市	横浜市子ども青少年局青少年育成課	045-671-2353	中央地域	厚木市民協働部青少年課	046-225-2580	
	横浜市鶴見区地域振興課	045-510-1692		大和市教育委員会生涯学習部青少年センター	046-260-5224	
	横浜市神奈川区地域振興課	045-411-7092		海老名市教育委員会生涯学習部青少年課	046-231-9787	
	横浜市西区地域振興課	045-320-8390		座間市教育委員会生涯学習部青少年課	046-253-8415	
	横浜市中区地域振興課	045-224-8136		綾瀬市教育委員会生涯学習部青少年課	0467-70-5655	
	横浜市南区地域振興課	045-743-8197		愛川町教育委員会生涯学習課	046-285-2111代	
	横浜市港南区地域振興課	045-847-8393		清川村教育委員会事務局	046-288-1215	
	横浜市保土ヶ谷区地域振興課	045-334-6307		湘南地域	平塚市民民部青少年課	0463-32-7029
	横浜市旭区地域振興課	045-954-6095	麻沢市教育委員会生涯学習部青少年課		0466-50-3562	
	横浜市磯子区地域振興課	045-750-2393	茅ヶ崎市教育委員会生涯学習部青少年課		0467-82-1111代	
	横浜市金沢区地域振興課	045-788-7804	秦野市教育委員会生涯学習部青少年課		0463-81-7011	
	横浜市港北区地域振興課	045-540-2239	伊勢原市教育委員会青少年課		0463-94-7171	
	横浜市緑区地域振興課	045-930-2236	寒川町教育委員会生涯学習課		0467-74-1111代	
	横浜市青葉区地域振興課	045-978-2295	大磯町教育委員会生涯学習課		0463-61-4100	
	横浜市都筑区地域振興課	045-948-2234	二宮町教育委員会生涯学習課		0463-72-6912	
	横浜市戸塚区地域振興課	045-866-8412	足柄上地域		南足柄市教育委員会教育部生涯学習課	0465-73-8036
	横浜市栄区地域振興課	045-894-8395			中井町教育委員会生涯学習課	0465-81-3907
	横浜市泉区地域振興課	045-800-2391		大井町教育委員会生涯学習課	0465-85-5016	
横浜市瀬谷区地域振興課	045-367-5695	松田町教育委員会生涯学習課		0465-83-7023		
川崎市	川崎市市民局地域生活部青少年育成課	044-200-2668		山北町教育委員会教育部生涯学習課	0465-75-3649	
	川崎区地域振興課	044-201-3133	開成町教育委員会教育部生涯学習課	0465-82-5221		
	幸区地域振興課	044-556-6609	西湘地域	小田原市教育委員会生涯学習部青少年課	0465-33-1723	
	中原区地域振興課	044-744-3159		箱根町教育委員会生涯学習課	0460-5-7601	
	高津区地域振興課	044-861-3146		真鶴町教育委員会生涯学習課	0465-68-1131代	
	宮前区地域振興課	044-856-3135		湯河原町教育委員会社会教育課	0465-63-211代	
	多摩区地域振興課	044-935-3133	地 域 北	相模原市教育委員会生涯学習部青少年課 (※)	042-751-0212	
	麻生区地域振興課	044-965-5113				
三浦地域	横須賀市子ども育成部青少年課	046-822-8224	平成19年3月31日現在			
	鎌倉市教育委員会生涯学習部青少年課	0467-44-0487	※平成19年4月2日付で、相模原市の組織改正により、以下の通り変更となります。			
	逗子市教育委員会教育部生涯学習課	046-872-8153				
	三浦市教育委員会社会教育課	046-882-2765	相模原市健康福祉局子ども育成部青少年課 042-769-8289			
	葉山町教育委員会生涯学習課	046-876-1111代				

資料集



平成 18 年度神奈川県青少年指導者養成協議会 専門部会委員

<委 員>

県立足柄ふれあいの村	事業担当	豊田 純夫
(財)横浜市青少年育成協会 横浜市野島青少年研修センター	主事	富岡 克之
神奈川県ジュニアリーダー大会実行委員		増井 保幸
(社)ガールスカウト日本連盟 神奈川県支部スカウト活動委員会	委員	石塚 咲
横須賀市こども育成部青少年課	育成担当	松見 春奈
県立清川青少年の家	副主幹	田倉 弘明

(この冊子には上記委員に検討・執筆していただき作成しました。)

<事務局>

県立青少年センター		
青少年支援部長兼指導者育成課長	高橋 和美	
副主幹	川手 隆生	
副主幹	佐野 賢一	

<イラスト執筆>表紙、裏表紙、P.48, 72, 102

県立清川青少年の家	立崎 聡子
-----------	-------

※他のイラストはフリーのイラスト集による。

編 集 神奈川県青少年指導者養成協議会

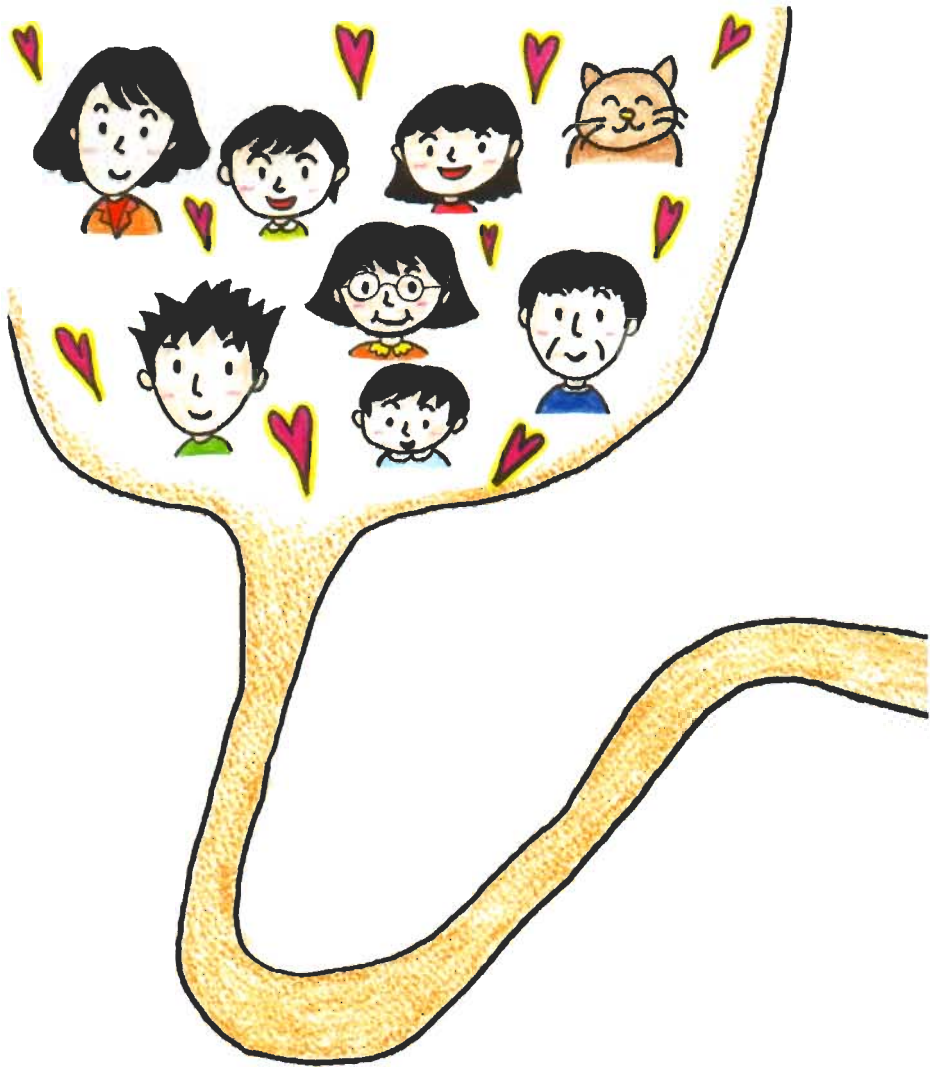
発 行 平成 19 年 3 月

神奈川県立青少年センター

〒 220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 9-1

電話 045-263-4466

F A X 045-242-8190



大豆油インクを使用しています。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。